

法政大學講義録

梅, 謙次郎 / 田中, 遜 / 山崎, 覺次郎 / 中村, 進午 / 清水, 澄 / 塚田, 達二郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1-17

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

60

(発行年 / Year)

1904-03-21



(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月十四日、廿五日、廿八日發行

三十七年度

明治三十七年三月二十一日發行

第一學年ノ十七

法政大學講義錄

第五拾一號



法政大學發行

第一學年第十七號目次

法學通論	論(自八九三至九〇三)	法學博士 中村 進 午
憲法	法(自二〇八至二一八)	法學士 清水 澄
民法物權	自第一章(自六九〇至第六章(自六九〇至六九九)	法學士 塚田 達二 耶
民法債權	自第一章第一節(自三三三至第一節(自六六八至六七八)	法學博士 梅 謙次 耶
國際公法	(平時(自二二六至二四四)	法學博士 中村 進 午
經濟學	(自二四四至二五九)	法學士 山崎 覺次 耶
羅馬法	法(自八九六至九〇六)	田 中 遜

雜報

○間接訴權ノ效力○連帶債務者ノ一人ニ對スル債務ノ免除ト保證債務

(正誤)

前號 中村博士國際公法一五頁三行博士(一六頁三行)
「實物」ハ「貨物」、一七頁商賣「ハ」商賣「ノ」誤

090
1904
1-1-17

第十章 法律ノ變更及ヒ廢止

法律ノ變更及ヒ廢止ハ本來法律ノ效力ノ問題ナリ故ニ茲ニハ唯法律カ效力ヲ失フコトニ付テ説明ヲ加フルノミ廢止トハ其法律ヲシテ全ク效力ヲ失ハシムルモノヲ謂ヒ變更トハ廢止シテ後ニ直チニ之ニ代ル所ノ法律ヲ出スモノヲ謂フ故ニ嚴格ニ論スレハ變更モ亦狹キ意義ニ於ケル廢止ナリ
法律ノ廢止ニハ大別スレハ國家ノ意思ニ依ラサルモノト國家ノ意思ニ依ルモノトアリ國家ニ廢止ノ意思ナキモ法律ニ定メタル事項カ消滅シタルモ之ヲ定メタル法律ハ當然其效力ヲ失フ例ハ臺灣ニ關シテ定メタル法律ハ臺灣

地震ノ爲メニ海中ニ陷落スルト同時ニ消滅スルカ如ク戰時ヲ限トシテ制定シタル法律ハ戰爭ノ終了ト共ニ消滅スルカ如ク眞實上ノ法律カ眞ノ悉ク跡ヲ絶テタルト共ニ消滅スルカ如シ
國家ノ意思ニ因ル廢止ニハ有効期間ヲ定メタルモノト然ラサルモノトアリ前者ハ其期間ノ經過ト共ニ當然消滅スルモノナレトモ後者ハ國家カ廢止スルノ意思表示ヲ爲ササルトキハ永久ニ有効ナルモノナリ有効期間ヲ定メタルモノハ例ヲ奉タレハ一定ノ年限間地租ヲ増加スル法律ノ如シ
法律ヲ廢止スル方法ニ二種アリ一ハ明示ノ廢止ニシテ他ハ暗黙ノ廢止ナリ明示ノ廢止トハ國家カ法律ヲ廢止スルコトヲ或形式ニ依リテ表示スルコトヲ謂ヒ暗黙ノ廢止トハ前法ヲ廢止ストノ意思表示ヲ爲ササルモ前法ト兩立セサル新法ヲ發布シタル場合ニ生スルモノナリ此場合ニ於テハ後法ハ前法ニ勝ツトノ原則ニ依リ前法ハ廢止セラレタルモノト看ルヘシ而シテ其相兩立セサル部分カ單ニ一部分ニ過キナルトキハ前法ノ一部分ノミノ暗黙廢止ト爲リ前法ノ全部ニ涉ルトキハ全部ノ暗黙廢止ト爲ル但後ノ普通法ハ前ノ特別法ノ廢止ヲ

第十一章 法律ノ執行

當然ニ來スモノニ非ス
憲法第六條ニ天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命スルカ故ニ執行カ天皇ノ權内ニ在ルコト極メテ明カナリ然リト雖モ天皇自ラカ執行ヲ爲スモノニ非スシテ天皇ハ行政官及ヒ司法官ナル機關ニ依リテ執行ヲ爲サシムルモノナリ面シテ行政官ト司法官トハ法律ヲ執行スルコトニ關シテ互ニ特ニ委任セラレタル權限ヲ有スルカ故ニ此權限ヲ侵スコトナキヲ必要トス此權限ヲ侵ササラシメシカ爲メニ權限爭ノ裁決ヲ爲ス機關ヲ設クル國家多シ
裁判官カ法律ヲ執行スルトハ法文ノ規定ニ基キテ當事者ノ爭ヲ決シ又犯罪者ヲ處罰スルコトナリ故ニ如何ナル爭ヲ決スヘキヤ又如何ナル犯罪ヲ處罰スヘキヤハ悉ク法文ノ規定ニ一任セサルヘカラス裁判官カ裁判ヲ爲スニ關シテ守ルヘキ原則ハ左ノ如シ
第一 裁判ハ裁判官カ自己ノ名ヲ以テスルコトヲ得ルモノニ非スシテ天皇ノ

名ニ於テ行フヘキモノナリ憲法第五七條參照而シテ其裁判ヲ爲スニハ一定ノ形式ヲ踐マサルヘカラス例ヘハ合議裁判ノ場合ニ於テハ必ス合議ヲ以テ裁判セサルヘカラルカ如シ又判決ニ一定ノ書類ヲ要スルカ如ク書記ノ立會ヲ要スルカ如シ

第二 裁判官ハ請求ナクシテ裁判ヲ爲スコトヲ得民事ニ付テハ原告刑事ニ付テハ檢事ノ請求ヲ待チテ始メテ裁判ヲ爲スヘキモノナリ例ヘハ刑事訴訟法第百八十四條ヲ參照スヘシ裁判官ハ又請求ナクシテ裁判ヲ爲スコトヲ得ナルノミナラス請求セラレサル事件ニ付テ裁判ヲ爲スコトヲ得ス加之請求セラレタル事件ノ一部分ニ付テモ亦裁判ヲ爲スコトヲ得ス

第三 裁判官ハ法律カ不正ナリトノ理由ニ依リテ裁判ヲ下スコトヲ拒ムコト能ハス凡テ國家カ適法ニ制定シタル法律ハ悉ク法律ナリ惡法モ亦法ナリト云フハ即チ是ナリ若シ惡法ナルカ故ニ裁判官ハ之ヲ適用セスト云ハハ是レ裁判官ヲシテ立法權ヲ侵サシムルモノナリ裁判官ハ法律ヲ執行スルコトヲ任務トスルモノナルカ故ニ惡法ナリトノ理由ヲ以テ裁判ヲ下スコトヲ拒ムコト能ハ

次ニ裁判官ハ或法律カ違法ナリトノコトヲ理由トシテ之カ適用ヲ拒ムノ權利アリヤハ大ナル問題ナリ裁判官ハ或法律ノ實質カ違法ナリトノ理由ヲ以テ之カ適用ヲ拒ムコト能ハス何トナレハ法律ノ實質カ違憲ナルヤ否ヤ違法ナルヤ否ヤハ立法權ヲ以テノミ之ヲ決スルコトヲ得ルモノニシテ若シ裁判官ニ法律ヲ審查シテ其適法ナルヤ否ヤヲ決スルノ權ヲ與フトセハ是レ即チ裁判官ヲシテ其權限ヲ超ニテ立法權ニ容喙セシムルモノナレハナリ然レトモ或法律カ法律タルノ形式ヲ踐マサリシトキハ之ヲ法律ト看ルコト能ハサルヘキカ故ニ裁判官ハ當然之カ適用ヲ拒ムコトヲ得ヘシ蓋シ斯ル法律ハ之ヲ法律ト稱スルコトヲ得サルモノナレハナリ形式ニ違ヒタル法律トハ例ヘハ國務大臣ノ副署ヲ要スヘキモノニ之ナカリシカ如キ御名御璽ヲ捺スヘキモノナルニ之ナカリシカ如キ議會ノ協賛ヲ經ヘキモノナルニ之ヲ經サリシモノノ如キ即チ是ナリ此事ニ關シテハ形式ニ違ヒタル場合ニノミ法律ノ適用ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシト云フニ歸スルナリ

國民力之ヲ守ルコトヲ欲スルト否トヲ問ハス法律ノ執行ヲ爲スヘキコトヲ行政官ニ命令シタルモノナレムナリ
此他一國ノ法律又ハ裁判ヲ他國ノ行政官カ執行スヘキヤ否ヤハ國際法ノ問題ニ屬スルヲ以テ茲ニ説カス

法學通論

本論 法律學ノ分類

テ各國ノ法律ニ共存スル通素ヲ見出シテ法律學ヲ研究スルニ極メテ必要ナルモノナリ

第二 時ヲ基トシタル分類

此分類ニ依レハ法律ヲ現行法學非現行法學ノ二種ト爲スコトヲ得ベシ。所謂古代法學現在法學ノ區別是ナリ。此分類ハ因テ以テ將來ニ於ケル立法ヲ爲スニ極メテ重要ナルモノナリ。左レハ此分類ニ依リテ管ニ現在及ヒ過去ノ法律ヲ論究スルニ止マルノミナリト考フルハ不當ナリ

第三 法律現象ノ範圍ヲ基トシタル分類

此分類ニ依レハ法律學ヲ普通法學特別法學ノ二種ト爲スコトヲ得。普通法學トハ法律現象ノ總テヲ基トシテ研究スルモノナリ。例ヘハ法學通論、法律哲學ノ如キ。即チ是ナリ之ニ反シテ特別法學トハ特別ノ法律現象ニ付テノミ研究スルモノヲ謂フ。例ヘハ刑法上ノ權利カ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカ行政法上ノ義務カ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカ民法ノ賣買カ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカヲ研究スルカ如シ

リ蓋シ何人モ他人ノ間ニ對シ答ヲ爲スノ義務ヲ有セサレハナリ。今住所ノ安全ニ關スル現行法規ノ重モナルモノヲ舉クレハ刑事訴訟法第七十八條、第四百四條行政執行法第二條、民事訴訟法第五百三十六條、第五百三十七條、戒嚴令第十四條、第六號、府縣制第十六條、第一項、酒造税法第十九條、醬油稅則第十八條等是ナリ

第六項 信書ノ秘密ヲ保ツノ權

憲法第二十六條ニ曰ク「日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルルコトナシ」ト故ニ信書ノ秘密ヲ侵ストキニハ必ス法律ノ規定ニ依ルヘキモノナリ。但信書ノ秘密ノ範圍ニ對シ異說ナキニ非サルニ由リ茲ニ其主義ヲ一言セント欲ス

「ラバンド」リ「エニング」等ノ憲法學者及ヒ行政法學者ハ信書ノ秘密ノ文字ヲ廣ク解釋シテ郵便局ニ於テ取扱フ所ノ總テノ事項ニ關シ信書ノ秘密ナルモノハ存スルモノト爲セリ。故ニ此說ニ從フトキハ管ニ封書端書等ノ内容及ヒ表書ノ

ミナラス小包郵便ノ送達ニ關シ若クハ郵便爲替ノ往復ニ關シ其實ヲ洩ストキハ總テ信書ノ秘密ヲ害スルコトト爲ル然ルニ之ニ反對スル學者ハ多ク刑法學者及ヒ刑事訴訟法學者ニシテ此等ノ學者ハ信書ノ秘密ノ範圍ヲ甚タ狹ク解シ信書ノ秘密ヲ侵スコトハ封書ノ内容ニ關スル秘密ヲ侵スコトニ限ルモノト爲シ其他郵便局ニ於テ扱フ事項ニ關シ之ヲ他ニ洩スコトヲ得サルハ官吏カ秘密ヲ守ルノ義務ヲ有スルカ爲メニシテ憲法ノ保障シタル信書ノ秘密ヲ侵スカ爲メニ非サルナリ此第二ノ說ハ信書ノ秘密ノ文字ヨリ論スルトキハ當テ得タルモノト信スルナリ何トナレハ秘密トハ秘密ニセントスルノ意思アルニ基クモノニテ信書ニ關スル秘密ハ發信者カ之ヲ公ニスルヲ欲セサルノ意思ヲ有セサル場合ニ限リ存スルモノニテ其秘密ニスルノ意思ハ封書ノ場合ニ於テノミ存スルモノナルコトヲ推定シ得レハナリ固ヨリ封書ノ内容ニ付テモ之ヲ秘密ニスル意思ナキ場合ニ存スルコトナキニ非スト雖モ反對ノ證據ナキ限ハ一應秘密ニスルノ意思アルコトヲ推定シ得ルモノナリ然ルニ之ニ反シテ端書等ヲ用フルハ封書ノ方法アルニ拘ハラス特ニ之ヲ用スルモノナルヲ以テ秘密ニス

ルノ意思ナキコトヲ想像セサルヘカラサルナリ然ラハ封書トハ如何ナルモノナルヤト云フニ糸謹讓等其如何ナル物ヲ以テスルヲ問ハス之アルカ爲メ特別ノ開封ノ行爲ヲ執ルニ非サレハ其内容ヲ見ル能ハサルニ至リタルモノヲ謂フ然ラハ電信電話ニ關シ信書ノ秘密存スルヤ否ヤト云フニ先ツ電信ニ付テ言ヘハ電信ハ之ヲ發スル人カ其文ヲ認メ郵便局ノ受付ニ差出シ郵便局ノ受付ノ官吏ハ技手ヲシテ其文ヲ發信セシムルモノナルニ依リ通常ノ場合ニ於テハ之ニ關シ秘密ナルモノ存スルコトナシ尤モ發信者カ特ニ暗號ヲ用ヒタル場合ニ於テハ秘密ニスルノ意思存スルコトヲ推定スヘキニ由リ此場合ハ憲法ノ所謂信書ノ秘密ノ範圍ニ屬スルモノト信ス又電話ニ關シテハ一見信書ノ文字中ニ入ラサルカ如シト雖モ均シク意思ヲ一方ヨリ他ニ通スルノ用ニ供セラルルモノナルヲ以テ電信郵便ト等シク其秘密ヲ憲法ニ依リテ保障セラルルノ精神ナリト考フヘキナリ而シテ電話ハ對話的ノモノニテ他人ニ聞カスコトヲ欲セサルヲ常ト爲スニ由リ反證ナキ限ハ之ニ關シ秘密存スルモノト論定スヘキナリ郵便法及ヒ電信法參照

第七項 所有權不可侵權

憲法第二十七條ニ曰ク「日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルルコトナシ」公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル^ト故ニ處分ヲ以テ所有權ヲ侵ス場合ニハ必ス法律ノ規定ヲ要ス然レトモ其處分ハ公益ノ爲メ必要ナルコトヲ條件トスルモノニシテ若シ公益ノ爲メ必要ナラサル場合ニ於テハ絕對ニ所有權ヲ侵スコトヲ得サルナリ是ニ於テ此條文ニ關シ左ノ二箇ノ疑問ヲ生ス

(一) 命令ヲ以テ所有權ヲ制限スルハ憲法第二十七條ニ牴觸セサルヤ否ヤ

此間ニ答フルニハ先ツ命令ヲ以テ所有權ヲ制限スルコトハ所有權ヲ侵スコトナリヤ否ヤヲ論定セサルヘカラス然ルニ所有權ナル觀念ハ民法上ノモノナルニ由リ民法ニ就テ其主義ヲ極ムルニ民法第二百六條ニハ「所有者ハ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ有ストアルニ由リ所有權ナルモノハ法律命令ノ制限内ニ存在スルモノト謂フヘキナリ是ニ於テ命令ヲ以テ所有權ヲ制限スルモ所有權ヲ侵スモノト爲ラサルナリ或ハ民法第

二百六條ノ法令ナル文字ハ法律及ヒ法律ノ委任ニ因ル委任命令ヲ指スモノニシテ法律ニ根據ナキ命令ハ此中ニ包含スルコトナシト爲ス者アリト雖モ法令ナル文字ノ普通ノ主義ハ廣ク法律命令ヲ指スモノニシテ民法第二百六條ノ場合ニ限リ特ニ然ラスト論スルトキハ其反訴ヲ必要トスルナリ此ノ如ク命令ヲ以テ所有權ヲ制限スルハ所有權ノ侵害ニ非ストスルトキハ憲法第二十七條ニ牴觸スルコトナク隨テ命令ヲ以テ所有權ヲ制限スルハ自由ニ爲シ得ルモノナリト答フルコトヲ得ルナリ命令ヲ以テ所有權ヲ制限スルノ一二ノ例ヲ上クレハ埋葬地ニ近ク土地ヲ有スル者ハ之ヲ距ル一定ノ距離内ニ於テ自由ニ井戸ヲ穿ルコトヲ得ス又ハ一定ノ區域内ニ家屋ヲ有スル者ハ燃焼物ヲ以テ家屋ヲ蓋クコトヲ得ス等ノ制限ヲ命令ニ依リテ受クルカ如シ

(二) 公益ノ爲メ必要ナル處分トハ如何ナル範圍ヲ有スルモノナリヤ

我憲法第二十七條第二項ニ該ル所ノ他國ノ憲法ノ規定及ヒ其憲法ノ條文ヲ沿革的ニ遡リテ其基礎ト爲リタル規定ヲ見ルニ殆ト總テ所有權ヲ侵シ得ルノ處分ハ公益ノ爲メ必要ナルコトト賠償ヲ與フルコトトヲ其要件ト爲スモノニシ

ヲ其處分ノ範圍ハ明言スルト否トヲ問ハス公用徵收ノ場合ナルコト明カナリ例ヘハ普漏西憲法第九條、白耳義憲法第十一條、埃太利憲法第五條、伊太利憲法第二十七條、葡萄牙憲法第八條、佛蘭西ノ人權宣言第十七條ノ如シ故ニ我憲法第二十七條第二項ノ場合ヲ解釋スルニ公用徵收ノ事ヲ指スモノナリト斷定スル人ナキニ非サルナリ然ルニ我憲法第二十七條ニハ「公益ノ爲メ必要ナル處分」ト規定シテ公用徵收ノ事ナルコトヲ明言セサルノミナラス賠償ノ事ヲモ定メサルカ故ニ其處分ノ範圍ハ公用徵收ノ場合ノミニ非サルヤ明カナリ故ニ勿論警察ノ目的ニ出ツル處分モ此中ニ包含スルモノナリト謂ハサルヲ得サルナリ蓋シ警察ノ目的モ其實公共ノ利益ヲ目的トスルモノナレハナリ或ハ此第二十二條第二項ノ處分中ニハ警察ノ目的ニ出ツル處分ヲ包含セス警察ノ目的ニ出ツル處分ニ付テハ法律ノ根據ヲ要セスシテ當然所有權ヲ侵シ得ルモノナリト説ク者ナキニ非ス而シテ其說ノ根據ヲ見ルニ警察權ナルモノハ國家ノ成立上固有ニ存在スルモノニテ法律ノ根據ヲ待テテ始メテ存立スルモノニ非サルナリ故ニ警察上ノ目的ニ出ツル場合ハ法律ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラスト云フニ在リ

然レトモ此說ハ我國ノ如キ憲法ヲ以テ明カニ統治權ノ作用ノ形式ヲ定メ法律ノ規定ニ依ラサルヘカラルモノヲ一方ニ列舉シ又他ノ一方ニハ憲法第九條ニ君主ノ警察命令權ヲ定ムルモ其但書ニハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得スト定メタルカ如キ國ニ於テハ適用スルヲ得サルモノトス（土地收用法、明治三十二年法律第七十二號、行政執行法第二條、第四條、戒嚴令、徵發令、傳染病豫防法、明治十七年太政官第八十二號、達墓地及埋葬規則、達背者處分法、同年內務省乙第四十號、達墓地及埋葬規則、標準、衆議院議員選舉法第一三條）

第八項 信教ノ自由權

憲法第二十八條ニ曰ク「日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス」ト故ニ日本臣民タルモノハ安寧秩序ヲ妨ケス臣民タルノ義務ニ背カル以上ハ信教ノ自由ヲ有スルモノナリト雖モ此第二十八條ニハ法律ノ定ムル所ニ由リ若クハ法律ノ範圍内ニ於テノ文字ヲ存セサルカ故ニ命令ヲ以テ安寧秩序ヲ妨ケ若クハ臣民ノ義務ト抵觸スル宗教ハ之ヲ

信奉スルコトヲ臣民ニ對シ禁スルコトヲ得ルナリ而シテ此信教ノ自由ハ如何ナル主義ヲ有スルカト云フニ第一宗教選擇ノ自由第二轉宗ノ自由第三無宗教ノ自由第四禮拜ノ自由ヲ包含スルモノナリ終ニ此條文ニ關シ注意スヘキハ臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ文字ナリ臣民ハ一般ニ法律命令ニ服従スルノ義務ヲ有シ若シ如何ナル命令ニ背クモ此臣民タル義務ニ背クモノナリト解釋スルトキハ信教ノ自由ノ保障ハ成立セサルコト爲ルニ由リ此第二十八條ノ臣民タルノ義務ニ背クノ中ニハ信教ノ自由ヲ制限スル命令ニ服従ヲ拒ム場合ヲ含マサルモノト解釋スハキナリ

第九項 意思發表ノ自由權

憲法第二十九條ニ曰ク「日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行……ノ自由ヲ存ス」此言論トハ口頭ヲ以テ意思ヲ發表スルヲ稱シ著作トハ文書圖畫ヲ以テ意思ヲ發表スルヲ稱シ印行トハ器械的若クハ化學的方法ヲ以テ文書圖畫ヲ複製シ之ヲ頒布スルコトヲ稱ス即チ此三者ハ共ニ意思發表ノ方法ヲ指スモ

ノニシテ縱令文書圖畫ヲ以テスルモ意思ヲ發表スルノ用ニ供セラレサルトキハ此中ニ含マレルモノニ非サルナリ例ヘバ文書圖畫ヲ書寫シタル陶器若クハ漆器ノ如シ又憲法ニ保障スル所ノ意思發表ノ自由ハ言論著作印行ノモニ關スルモノニシテ其以外ノ方法例ヘバ動作ヲ以テ意思ヲ發表スル場合ノ如キハ憲法ノ保障スル所ニ非サルナリ此中印行ノ自由ニ關シテハ多クノ憲法ニ於テ檢閱主義ヲ用フルヲ得スト定ムルノ例アリト雖モ我憲法ニ於テハ之ニ關シ何等ノ規定ナキニ由リ法律ヲ以テスル以上ハ檢閱主義ヲ執ルモ憲法ニ背クモノニ非サルナリ（我現行制度ハ届出主義ニ依リ檢閱主義ヲ執ラス）檢閱主義トハ警察官廳又ハ其他ノ官廳ノ檢閱ヲ經且其許可ヲ得ルニ非サレハ總テ出版物ヲ頒布スルコト能ハサルノ主義ヲ指スモノナリ蓋シ歐洲ニ於テハ專政時代ニ於テ此檢閱主義ヲ執リタル結果ヨリ生シタル弊害少カラサリシヨリ之ヲ禁止スルコトヲ憲法ニ掲ケタリト雖モ我國ニ於テハ此弊ヲ受ケタルコト少キヨリ憲法ハ明文ニ特ニ此趣意ノ禁止ヲ掲ケサリシモノナリ

第十項 集會及結社ノ自由權

憲法第二十九條ニ曰ク「日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ……集會及結社ノ自由ヲ有ス」是レ亦單ニ法律ノ範圍内ト規定シ其取締ノ方法ニ關シ何等ノ明文ヲ憲法ニ有セサルニ由リ法律ハ集會結社ニ關シ許可主義ヲ執ルモ届出主義ヲ執ルモ全ク其自由ニ屬スルモノナリ尤モ我現行ノ制度ハ届出主義ヲ執リ唯例外トシテ法律ヲ以テ全ク禁セラルル結社ハ秘密結社ノミナリ普偏西ニ於テハ其憲法ニ屋内ノ集會ニ付テハ届出主義ヲ執ルヘク屋外ノ集會ニ付テハ許可主義ヲ執ルヘシト爲シタリ白耳義モ其憲法ニ於テ之ト同様ノ事ヲ規定シタリト雖モ我國ニテハ右ニ述ヘタル如ク何レノ主義ヲ執ルモ全ク自由ナルモノナリ然ラハ集會トハ如何ナルモノナリヤト云フニ憲法第二十九條ノ集會トハ或事項ヲ論議若クハ決定スルノ共同ノ目的ヲ有シテ一時的ニ公衆ノ集合シタルモノヲ指シ此ノ如キ共同ノ目的ヲ有セサル集會若クハ親族ノ集會ノ如キハ此中ニ入ラサルナリ又結社トハ憲法上合意のニ定メタル共同ノ目的ヲ有スル多數人

民ノ團結ニシテ而モ永續的ノ性質ヲ有スルモノヲ指スニ外ナラサルナリ故ニ市町村團體ノ如キ法律上ノ團體若クハ家族ノ如キ合意のノ目的ヲ以テ集ムタル團體ノ如キハ此中ニ入ラサルナリ

第十一項 請願ノ自由權

憲法第三十條ニ曰ク「日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得」然ルニ今日ニ至ルマテ臣民ノ請願ニ關スル規定ハ議院法ニ存スルノミニテ兩議院以外ニ爲ス所ノ請願ニ付テハ何等ノ規定ヲ有セサルナリ即チ憲法第三十條ノ別ニ定ムル所ノ法ナルモノ存在セサルニ由リ議院以外ニ對シテハ請願スルコト能ハサルノ狀況ニ在リ固ヨリ今日ニ於テモ官廳ニ提出セラルル所ノ請願アリテ其請願ハ受理セラルルモ是レ官廳ノ好意ニ依リテ其請願書ヲ返還セサルニ止マリ法ノ定ムル所ニ從ヒテ受理スルニ非サルナリ隨テ官廳力之ヲ受理セスシテ却下スルモ如何トモスルヲ得サルナリ嘗テ請願規則ナルモノ存在シタルコトアリシモ其請願規則ナルモノハ今日ノ所謂

訴願ニ關スル法規ニシテ現行訴願法ノ制定ト共ニ消滅ニ歸シタルモノナリ
(明治十三年第五十三號布告明治九年第二號違第四條議院法第三章)

第十二項

法律ニ依ラサレハ兵役及ヒ納税ノ義務ニ服セサルノ義務

憲法第二十條及ヒ第二十一條ハ兵役及ヒ納税ノ二者ハ必ス法律ノ規定ニ依ルヘキコトヲ定メタリ故ニ命令ヲ以テ兵役ニ就クコトヲ命セラレ若クハ租税ヲ納ムルコトヲ命セラレモ此命令ニ拘束セラルルコトナキモノナリ右憲法第二十一條ノ納税ナル文字ハ國税ヲ納ムルコトノミヲ指スモノナリヤ或ハ國税ノ外地方税ヲ納ムルコトモ之ニ包含スルモノナリヤニ付キ疑ナキニ非スト雖モ廣ク納税トアル以上ハ國税ノミナラス市町村税ニ至ルマデモ總テ之ニ含マルルモノト解釋スルヲ至當ト信ス是レ今日府縣税市町村税等ノ法律ニ根據ヲ有スル所以ナリ但之ト區分スヘキハ憲法第六十二條ノ租税ナル文字ニシテ總テ憲法第六章ノ規定ハ國家ノ財政ニ關スル規定ナルニ由リ第六十二條ノ租税ノ

文字モ國税ノ文字ト解釋スヘク隨テ憲法第二十一條ノ税ノ文字トハ其範圍ヲ等シクスルモノニ非サルナリ又第二十條ニ付テ注意スヘキハ第二十條ノ「日本臣民ナル文字ハ男子ノミヲ指スモノナリト解釋スル者アリト雖モ憲法ノ明文ハ廣ク日本臣民ニ對シ法律ニ依ラサレハ兵役ヲ課セサルコトヲ定メタルニ止マリ兵役ノ義務ハ男子ニ限ルコトヲ定メタルニ非ス又法律ニ依ラサレハ兵役ヲ課セラレサルノ保障ヲ與ヘラルルモノハ男子ノミナリトノ趣旨ヲ以テ規定セラレタルモノニ非サルナリ尙ホ兵役ノ義務ニ關シ一言センニ此兵役ノ義務ノ有無ヲ以テ臣民ト外國人トヲ分ツノ唯一ノ標準ナリト認ムル者アリト雖モ是レ亦誤レルモノニシテ實際上何レノ國ノ制度ニ於テモ現今兵役ノ義務ヲ外國人ニ課セサルニ止マリ理論上兵役ノ義務ヲ外國人ニ絕對ニ課スルコトヲ得サルモノニ非ス隨テ此義務ノ有無ノミヲ以テ此兩者ヲ區別スルヲ得サルナリ

第三款 憲法第二章ノ例外ノ場合

第一項 戰時又ハ國家事變ノ場合

憲法第三十一條ニ曰ク本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシト故ニ憲法第二章ニ於テ保障セラレタル臣民ノ權利モ戰時又ハ國家事變ノ場合ニハ憲法ノ規定ニ基カスシテ之ヲ侵スコトヲ得ルモノナリ而シテ戰時トハ明治十五年布告第三十七號ノ定ニ依リ外患又ハ内亂アルニ際シ戰時タルコトヲ布告シタル場合ヲ指スモノナリ故ニ我制度上戰時ナル文字ノ意義ハ必スシモ國際公法ノ戰時ノ場合ト同一ニ歸スルコトヲ保セシテ宣戰ノ布告アリタル場合ニ限リ之ヲ戰時ト稱スルナリ又國家事變ノ場合トハ内亂タルト外患タルトヲ問ハス公共ノ安寧秩序ニ危害アリト認メラルル場合ニ於テ而モ戰時ト認メラレタル時ヲ稱スルモノナリ今憲法第三十一條ト同第十四條トノ關係ヲ一言セシニ第三十一條ハ第十四條ノ所謂戒嚴宣告ノ場合ヲ指スモノナリヤ或ハ第三十一條ノ中ニハ戒嚴宣告ノ場合ヲ含マサルモノナルヤノ疑存セリ第三十一條ノ中ニハ第十四條ノ場合ヲ包含セスト唱フル者ハ曰ク戒嚴ノ要件及ヒ效力ハ法律ヲ以テ定メラルモノナルニ由リ戒嚴宣告ノ結果トシテ法律ニ基カスシテ倡書ノ秘密ヲ侵シ住所ノ安全ヲ害

シ其他憲法第二章ニ保障セラレタル權利ヲ侵害スルモ法律ノ規定ノ結果ニ外ナラサルヲ以テ戒嚴ノ作用ハ憲法第二章ノ各條項ト抵觸スルモノニ非ス隨テ戒嚴宣告ノ場合ニ付テハ憲法第三十一條ノ規定ヲ要スルコトナキモノナリ故ニ第三十一條ノ場合ハ戒嚴ヲ宣告シタルトキ以外ノ場合ヲ指スモノナリト之ニ反對シテ第三十一條ノ場合ハ戒嚴宣告ノ場合ヲ指スモノナリト論スル者ハ曰ク戒嚴ヲ宣告スル場合ハ重大ナル場合ナリ故ニ其要件及ヒ效力ヲ法律ヲ以テ定ムヘシト規定スルナリ然ルニ此以外ノ場合ニ於テ非常大權ノ行動ヲ認ムルトキハ天皇ハ戒嚴ヲ宣告セシテ自由ニ憲法第二章ノ規定ヲ蹂躪スルコトヲ得ルノ結果ヲ生シ得ルモノナリト今此兩說ヲ比較スルニ憲法第三十一條ヲ特ニ設ケタル精神ヨリ考フルトキハ第一說論者ノ如ク戒嚴宣告ノ場合以外ニ於テ戒嚴令ノ規定ニ依ラサル所ノ非常大權ノ行動ヲ認ムルニ在ルコト明カナリ且又我憲法第二十一條ニ當ル所ノ普漏西憲法第一百十一條ハ殆ト之ト同一ノ規定ニシテ而モ其普漏西憲法ヲ解釋ハ一般ニ戒嚴令ニ依ラサル所ノ非常大權ノ行動アルコトヲ認ムルモノナリ故ニ其憲法ヲ參照シタル我憲法ハ之ト同一

ノ趣意タルコトヲ認ムルヲ得ルナリ故ニ第三十一條ト第十四條トノ關係ニ付
テハ第一說ヲ採ラント欲スルナリ

第二項 陸海軍ノ軍人

憲法第三十二條ニ曰ク「本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セ
タルモノニ限リ軍人ニ準行ス」ト故ニ軍人ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ從フヘキ
ヲ原則ト爲シ之ト抵觸セサル場合ニ於テノミ憲法第二章ノ規定ノ適用ヲ受タ
ルモノナリトセラレタリ蓋シ軍隊ノ紀律ヲ保ツカ爲メ且軍人ヲシテ其職ヲ全
クセシムルカ爲メ軍事上ノ法令又ハ軍隊ノ紀律ニ先ツ服從スルヲ極メテ必要
ナルコトト認ムレハナリ是レ軍人カ法律ニ定メタル裁判官以外ノ裁判官ノ裁
判ヲ受ケ若クハ法律ニ依ラスシテ其居住ノ自由ヲ制限セララル所以ナリ然ラ
ハ茲ニ軍人トハ如何ナル者ヲ指スヤト云フニ現役軍人及ヒ召集中ノ豫備役、後
備役ノ軍人ヲ指スモノニテ軍屬ノ如キハ之ヲ含マルモノニ非サルナリ(陸軍
刑法第三條、第四條、海軍刑法第五〇條、第五一條、明治三十七年勅令第六號海軍給

ナル利益ヲ與フルモノナリ蓋シ占有者ニ此效力ヲ與フル所以ハ物ノ普通ノ狀
態ニ於テハ事實上ノ支配ヲ爲ス者即チ占有ヲ爲ス者ハ權利者タル場合最モ多
ク權利ナクシテ他人ノ物ヲ占有スルカ如キハ寧ロ例外ト認メサルヘカラサレ
ハナリ而シテ例外ニ屬スル事項ヲ主張セントセハ先ヅ之ヲ立證スルコトヲ必
要トスレハナリ(第一八八條)

第四款 善意ノ占有者ハ占有物ノ果實ヲ取得スル ノ權利ヲ有ス

惡意ノ占有者ハ占有物ノ果實ヲ取得スル權利ナキカ故ニ其果實ハ之ヲ返還シ
現ニ消費シ過失ニ因リ毀損シ又ハ收取ヲ怠リタル果實ニ付テハ之ニ相當スル
代價ヲ償還スヘキ義務ヲ有ス之ニ反シテ善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル一
切ノ果實ヲ收取スル權利アルモノトセリ然レトモ善意ノ占有者ナルモ本權ノ
訴ヲ提起セラレ敗訴シタルトキハ起訴ノ時ヨリ惡意ノ占有者ト看做サルルカ
故ニ其時ヨリ果實取得ノ權利ヲ失フヘキモノナリ

第三章 準占有

第一節 準占有ノ性質

準占有ニ關スル法制ヲ按スルニ羅馬法ニ於テハ帝政時代ニ於テ始メテ役權ニ付テ之ヲ認メタルノミ隨テ準占有ハ有體物ヲ目的トスル權利ノミニ限定シ權利ヲ占有スル觀念ハ未タ存在セナリシモノノ如シ中世カノーン法典ニ至リ準占有ヲ認ムル範圍ヲ擴張シ私法上ノ權利宗教上ノ權利ノミナラス租稅ヲ徵收スル權利等ニ付テモ準占有ヲ認メタリ例ヘハ夫權、親權、家長權、宗教上ノ爵位ニ關スル權利ノ如キ皆準占有ノ目的ト爲リ得ヘキモノトセリ然レトモ準占有ノ目的ト爲ル權利ハ一回ノ使用ニ因リテ消滅セサル繼續の性質ヲ有スル權利ニ限ルモノトセリ獨逸普通法ヘカノーン法ニ摸擬セル點アレトモ大ニ其範圍ヲ縮少シ親族上ノ權利ニハ占有ヲ認メス又公法上ノ權利ニ付テモ占有ヲ許サス唯リ財產權ニ付テノミ之ヲ認メタリ

右ノ如ク法律カ準占有ヲ認ムル根本ノ理由ハ占有ヲ保護スルハ社會ノ秩序ヲ

維持スルヲ以テ目的トシ社會ノ秩序ハ現存ノ關係ヲ維持シ保護スルヲ以テ保持セラルルモノナリ而シテ現存ノ關係ハ之ヲ二箇ニ區分スレハ物ノ事實上ノ支配ト權利ニ對スル事實上ノ支配ト爲スヲ得ヘシ而シテ法律カ物ノ事實上ノ支配ヲ保護スル以上ハ權利ニ對スル事實上ノ支配モ亦之ヲ認メテ保護スヘキヲ當然トス是レ準占有ノ因リテ起ル根本ノ觀念ト謂ハサルヘカラス

右ノ如ク權利ニ對スル事實上ノ支配ハ物ニ對スル事實上ノ支配ト相類スルカ故ニ之ヲ準占有トシ法律カ占有ヲ保護スルト同シク之ヲ保護セリ或ハ曰ク占有ノ目的ハ物又ハ權利ノ二ト爲スコトヲ得ルカ故ニ準占有ハ占有ノ一種ナリト謂フコトヲ得ヘシト是レ立法論トシテハ不當ノ說ニ非サルモ我民法ノ解釋トシテハ其當ヲ得タルモノニ非ス若シ權利ノ事實上ノ支配ヲ占有ノ中ニ包含セシメ得ヘキモノナリトセハ別ニ準占有ナル規定ヲ設クルノ必要ナクレハナリ

準占有ノ目的ト爲ルコトヲ得ル權利ハ近世ノ進歩シタル立法例ニ於テハ財產權ニ限定セラルルモノトス蓋シ公法上ノ權利又ハ親族上ノ權利ニ付テ準占有

ヲ認ムルハ寧ロ社會ノ秩序ヲ亂シ風俗ヲ害スルノ處アリ然ルニ却テ之ヲ認メ
テ保護スルハ占有保護ノ趣旨ニ背反スレハナリ而シテ其財產權ナル以上ハ債
權ナルト物權ナルトヲ問ハス總テ準占有ノ目的ト爲ルコトヲ得レトモ占有ノ
性質トシテ既ニ述ヘタルカ如ク多少繼續的性質ヲ必要トスルカ故ニ一回ノ使
用ニ因リテ消滅セサル權利タルコトヲ要スルハ勿論ナリトス

第二節 準占有ノ取得及ヒ其效力

占有ノ取得ハ自己ノ爲メニスル意思ト物ノ所持トヲ要素トスルコト既ニ述ヘ
タル所ナリ而シテ準占有ノ取得ニハ性質上物ノ所持ナルモノアリ得ヘカラサ
ルカ故ニ權利ヲ支配スル事實即チ權利ヲ行使スルコトヲ以テ其一要素ト爲サ
サルヘカラス權利ノ行使トハ義務者ニ對シテ自己ノ義務ヲ履行セシムル意思
ヲ以テ或行爲ヲ爲サシメ若クハ爲サラシムルコトヲ謂フ其他占有ニ關スル
規定ニシテ準占有ニ應用シ得ヘキモノハ皆其規定ニ依リテ支配セラルルカ故
ニ準占有ノ喪失及ヒ效力ニ付テハ重複シテ茲ニ説明スルノ必要ナカルヘシ

第四章 所有權

第一節 所有權ノ意義

所有權ノ意義ニ付テハ從來學者各其說ヲ異ニス多數ノ學者ハ所有權ヲ定義シ
テ曰ク所有權トハ法律又ハ法律行爲ニ依リテ限定セラレタル範圍内ニ於テ自
由ニ物ヲ使用シ收益シ處分スル權利ナリト然レトモ此定義ハ所有權ヨリ生ス
ル作用ト所有權其モノトヲ混同セルモノナリ舊法典ノ如キハ「所有權トハ自由
ニ物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ謂フ」ト定義シ物ノ使用、收益、處分ノ權ヲ
以テ所有權ノ成立要素ト定ムルカ如キ傾アリキ若シ以上ノ三要素ヲ以テ所有
權ノ成立要素ナリトセハ此一要素ヲ缺キタルトキハ直チニ所有權ノ消滅ヲ惹
起ササルヘカラサルノ理ナリ然ルニ所有者ハ物ノ使用、收益、處分等ヲ絕對ニ他人
ニ與フルモ尙ホ法律ハ之ヲ所有者トシテ認ム例ヘハ永代借地權ヲ認メラレタ
ル土地ニ仍ホ土地ノ所有權アリトスルカ如キ是ナリ又或學者ハ處分權ヲ以テ
所有權ノ要素ト爲シ處分權ヲ通常ニ區別シテ事實上ノ處分權法律上ノ處分

權トセリ事實上ノ處分權トハ物ノ實體ヲ變更シ消滅セシメ又ハ之ヲ毀損スル權利ヲ謂フモノニシテ物ニ對シテ物理的ノ力ヲ加フルコトヲ得ル勸キヲ謂ヒ法律上ノ處分權トハ物ヲ讓渡シ又ハ拋棄スルコトヲ得ル權利ヲ謂フモノニシテ意思表示ヲ以テ其物ヲ處分スル勸キヲ謂フ面シテ所有者ハ物ノ使用收益ニ關スル權利ヲ失フモ仍ホ所有者タルニ妨ナキモノノ處分權ヲ失ヒタル場合ニ於テハ既ニ所有者ニ非サルカ故ニ處分權ハ所有權ノ要素ナリト謂ハサルヘカラスト主張セリ然レトモ所有者ハ屢其所有物ニ對スル事實上ノ處分ヲ失フコトアリ例ヘハ所有物ヲ他人ニ占有セラルル場合ノ如キ又ハ他人ニ其物ヲ毀損スル權利ヲ與フルカ如キ此等ノ場合ニ於テモ所有者ハ決シテ其物ノ所有權ヲ喪失スルモノニ非ス又所有者ハ法律上ノ處分權ヲ失フ場合例ヘハ物ノ讓渡若クハ質入ヲ禁止セラレタルカ如キ場合ニ於テモ所有權ハ仍ホ存在スルモノナリ例ヘハ政府ヨリ拂下ヲ受ケタル葉煙草ニ對スル所有權ノ如キ之ヲ他人ニ讓渡スコト能ハサルモ其物ノ所有權ハ毫モ喪失セサルカ如キ是ナリ且所有者ハ他人ニ物ノ使用收益處分ノ權利ヲ與フルモ爲メニ所有權ハ消滅スルモノニ非

ス故ニ所有者ハ所有權ノ作用トシテ物ノ使用收益處分ノ權利ヲ有スレトモ所有權ハ此等權利ノ集合シタルモノニ非ス又或學者ハ所有權トハ絕對的ノ權利ナリ又ハ無制限ノ權利ナリト主張スレトモ所有權ハ法令ニ依リ又ハ法律行爲ニ依リ種種ナル制限ヲ受ケルモノナルカ故ニ此說明ハ當ヲ得タルモノニ非ス要スルニ所有權ノ定義トシテ最モ適當ナルハ所有權トハ法令ノ範圍内ニ於テ物ヲ總括的ニ支配スル權利ナリト云フニ在リト信ス

一 所有權ハ物ヲ總括的ニ支配スル權利ナリ

物ノ支配權トハ物ニ關シテ他人ヲ排斥シ自己ノ意思ヲ以テ自由ニ之ヲ左右シ得ヘキコトヲ意味スルモノニシテ其物ニ關シテハ他人ノ干與スルコトヲ許サス占有ハ事實上物ヲ支配スル權利ナレトモ所有權ハ法律上物ヲ支配スル權利ナリト解釋スヘキモノナリ何トナレハ占有權ノ有無ハ實際ニ物ヲ支配スルト否トニ依リテ判定セラルルモノナレトモ所有權ノ有無ハ物ヲ實際ニ支配スルト否トニ無關係ニシテ法律上支配權ヲ有スヘキ者ヲ所有者ト謂フヲ以テナリ物ニ關スル支配權ハ他人カ其物ニ付テ惹起サントスル關係ヲ除外シ且積極的

ニ種種ナル關係ヲ作リ自己ノ意思ニ依リテ其物ヲ左右スルコトヲ得ル權利ヲ謂フ而シテ所有者ノ有スル支配權ハ地役權者永小作權者ノ有スル權利ノ如ク物ニ對スル關係ノ一部分ニ非スシテ全部ノ關係ヲ惹起スコトヲ得ル完全ノモノニシテ總テノ方向ニ付テ支配權ヲ有スルモノナリ今支配權ノ作用ヲ分析スレハ左ノ如シ

(イ) 物ヲ使用スルコト 物ヲ其用方ニ從ヒテ自己ノ用ニ供シ吾人ノ缺乏ヲ満足セシムルコトヲ謂フモノニシテ家屋ニ住居シ衣服ヲ著用スルカ如キ是ナリ

(ロ) 物ヲ收益スルコト 收益トハ物ヨリ生スル天然ノ果實又ハ法定ノ果實ヲ取得スルコトヲ謂フ例ヘハ樹木ノ果實ヲ採リ又ハ家賃若クハ貸金ノ利子ヲ收取スルカ如キ是ナリ

(ニ) 物ヲ處分スルコト 處分ニハ事實上ノ處分ト法律上ノ處分トアルコト既ニ述ヘタル所ナリ例ヘハ物ノ所有權ヲ他人ニ讓渡シ又ハ或物ヲ質入レ又ハ質貸スルハ法律上ノ處分ニ屬シ其物ヲ消費シ毀損シ破壞スルカ如キハ事實上ノ處分ニ屬スルモノナリ

(三) 物ヲ占有スルコト 所有者ハ所有ニ係ル物ヲ支配スル權利ヲ有スルカ故ニ第三者カ其事實上ノ支配ヲ妨害セハ本權ノ訴ニ依リ其妨害ヲ排斥シ又ハ之カ取戻ヲ請求スルコトヲ得

二 所有權ハ法令ノ範圍内ニ於テ總括的ニ物ヲ支配スル權利ナリ

凡ソ權利ハ法令ヲ條件トシテ存在スルモノニシテ權利ノ内容ハ法令ニ依リテ定マルモノナリ換言スレハ法令ハ寧ロ權利ノ内容ヲ確定スルモノニシテ決シテ權利ヲ制限スルモノニ非ス舊民法ハ所有權ノ絕對的存在ヲ認メ法律ヲ以テ之ヲ制限スト規定セリ然ルニ現行法ハ此等ノ主義ト相反シ權利ノ内容ハ總テ法令ニ依リテ定マルモノニシテ法律ハ權利ヲ制限スルモノニ非ス唯權利ノ廣狹範圍ヲ定ムルモノナリトノ主義ヲ探レルカ故ニ第二百六條ニ於テ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ナルコトヲ規定シ所有權ノ無制限ナルコト絶對ナルコト等ノ學說ニ反對スルモノナルコトヲ明カニセリ法令ノ制限内トハ事口用語トシテハ不適當ニシテ法令ノ範圍内ト謂フヲ以テ能ク其主義ト一致スルモノナリト信ス然レトモ其意義ハ法令ノ範圍

内ト云フト同一ニシテ所有權モ法令ノ範圍内ニ於テ享有スヘキ權利ナルコトヲ明カニシ所有權ノ作用ハ獨リ法律ノミナラス命令ヲ以テ仍ホ之ヲ制限スヘキ場合アルコトヲ豫想セリ或ハ憲法第二十七條ニ「日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルルコトナシ」公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル「ト規定セルカ故ニ命令ニ依リテ所有權ノ内容ヲ限定スルハ憲法ノ趣旨ト抵觸セルモノニ非サルカヲ疑フ者アレトモ憲法ハ公益上ノ必要ニ基キ所有權ヲ侵害スルハ法律ニ依ルヘキコトヲ保障シタルモノニシテ所有權ノ内容ハ法律ニ依ルニ非ラレハ之ヲ制限シ限定シ得サルコトヲ規定シタルモノニ非サルカ故ニ兩者決シテ相矛盾スルモノニ非サルナリ

第二節 所有權ノ目的物

所有權ノ目的ト爲リ得ヘキモノハ有體物ニ限ルヤ又ハ權利ノ如キモノヲモ包含スルコトヲ得ルヤ民法第二百六條ニハ「所有者ハ其所有物ノ使用云云」ト規定シ第八十五條ニハ「本法ニ於テ物ト稱スルハ有體物ヲ謂フ」ト規定シ第八十六條

ニ土地及ヒ其定著物ハ不動產トシ其他ノ物ハ總テ之ヲ動產トスト規定セルカ故ニ所有權ノ目的物ハ動產又ハ不動產ニ限定セラルモノナリ然レトモ無記名債權ハ民法上動產ト看做サルルカ故ニ性質上有體物ナラサルモ所有權ノ目的ト爲ルコトヲ得ヘシ蓋シ有體物トハ空間ノ一部ヲ填充シ權利ノ目的ト爲リ得ヘキ物ヲ謂フ故ニ「イ」物ハ現在ノ存在ヲ有スル物體ニシテ空間ノ或場所ヲ占ムルモノナラサルヘカラス隨テ電氣光線音響ノ如キハ物ニ非ス（ロ）物ハ權利ノ目的ト爲リ得ヘキモノナラサルヘカラス換言スレハ物ノ性質上吾人ノ支配シ得ヘキモノ又ハ法律上吾人ノ處分シ得ヘキモノナラサルヘカラス隨テ有體物ニテモ日月星辰ノ如キ若クハ公有ノ道路ノ如キハ所有權ノ目的ト爲ルコトヲ得ス而シテ（一）動產ハ分割シ得ヘカラス一體ナルトキハ必ス之ヲ一體トシテ其全體ニ對スルニ非サレハ所有スルヲ得ス例ヘハ馬一頭ノ如キ是ナリ又分割シ得ヘキ動產ニテモ一體ヲ構成セル以上ハ現ニ之ヲ分割セル間ハ其一部ニ付テ所有權ノ目的ト爲スコトヲ得ス例ヘハ一反ノ織物中其或部分ニ對シテ所有スルカ如キ一樽ノ酒ノ中ニテ其數斗ニ對シテ所有權ノ目的ト爲スカ如キハ不

能ナリ故ニ此等ノ物ニ付テハ實際上之ヲ分割スルニ非サレハ其特別ノ部分ニ對シテ所有權ヲ取得スルコトヲ得ス又一ノ物體ニ非シテ數箇ノ物體ヨリ成ル集合物ニ付テハ集合セル各物ニ對シテ箇箇獨立ニ所有權存在セルニ拘ハラズ便宜上總括シテ一物上ニ一所有權アルカ如ク看做スコトアリ例ヘハ一俵ノ米、一倉庫内ノ貨物一群ノ家畜ニ對スル所有權ノ如キ是ナリ(二)不動產ハ之ヲ分割シテ物理上ノ一體ト爲スコトヲ得サルモノニテモ人爲ヲ以テ其限界ヲ定メ一定ノ區畫ヲ設クルトキハ其區畫内ニ對シテ所有權ヲ取得スルコトヲ得例ヘハ一段歩ノ土地又ハ一棟ノ建物内ノ一定ノ部分ノ如キ是ナリ土地所有權ノ效力ノ及フ範圍ハ土地ノ表面ニ止マラスシテ其土地ノ上下ニ及フモノナリ(第二)〇七條舊民法ハ所有者ハ地上ニ一切ノ築造栽植ヲ爲シ又ハ之ヲ廢スルコトヲ得又其地下ニ一切ノ開鑿及ヒ探掘ヲ爲スコトヲ得ト規定シ土地所有權ノ效力ノ及フ範圍ノ適用ヲ示セトモ其規定ハ未タ盡ササル所アルカ故ニ現行法ハ總括的ノ規定ヲ設ケ單ニ土地所有權ノ土地ノ上下ニ及フコトヲ規定セリ獨逸民法ニハ土地所有者ノ權利ハ其土地ノ上下ニ及ヘトモ他人ノ其土地ニ及ホス侵

私ガ就レモ拂ハス、甲ニ對シテモ辨濟セス、乙ニ對シテモ辨濟セス、此書籍ヲ賣、テ其代價ニ就テ辨濟ヲ受ケヤウト云フノデアル、サウスルト一方カラ云フトドテラモ債權者デアルノデスケレドモ、甲ハ債權ノ外ニ質權ト云フ物權ヲ持ッテ居ル、故ニ其者ハ此書籍ヲ賣、テ其代價ニ就テ一番先キニ辨濟ヲ受ケル、甲ガ辨濟ヲ受ケテ尙ホ殘ガアレバ乙モ自己ノ債權ノ辨濟トシテ代價ヲ受取ルコトガ出來ルケレドモ殘ガナケレバ一文モ取レズ、又假ニ此本ノ價ヲ一圓ト致シマシテ甲ノ債權ガ七十錢、乙ノ債權モ七十錢ト致シマセウ、甲ガ七十錢取ルト云フト後ニ三十錢シカ殘ラヌ、乙ハ其三十錢ニ甘ジナケレバナラヌ、同ジク七十錢ヲ貸シタ者デアリナガラ甲ハ七十錢全部ヲ取ルコトガ出來ルケレドモ乙ハ三十錢シカ受ケルコトガ出來ナイ、ソコハ物權ト債權ノ力ノ相違デアル、抵當權デ申スト例ヘバ此不動產ヲ抵當ニ入レテ甲カラ金ヲ一萬圓借りテ居ル、乙カラ無抵當デ又一萬圓借りテ居ル、サウシテ就レモ拂ハス、甲ハ債權者トシテハ同ジコトデアアルケレドモ抵當權ト云フ物權ヲ持ッテ居ル、ソレガ爲メ此不動產ヲ賣却シテ債務ノ辨濟ニ充テヤウト云フトキニハ、同ジ一萬圓ヲ貸シタ者デアアルガ、此不動產ガ一萬

圖若クハソレヨリ安ク賣レタナラバ甲一人デ取ツ仕舞フ、乙ハ一文モ取ルコトガ出来ナイ、一萬五千圓ニ賣レタナラバ甲ガ一萬圓取ツ乙ハ五千圓シカ受ケルコトガ出来ナイ、即チ甲ハ乙ニ對シテ優先權ヲ持ツ居ル、何ゼカト言ヘバ物權ヲ持ツ居ルカラデアル、茲ニ至テ優先權ノ働ガ最も明瞭ニ分ルダラウト思ヒマヌ。

今一ツハ追及權。是ハ俗ニ言フト追フ駈ケテ行ク權ナンデス、先ヅ此言葉ノ意味カラ申上ゲマスルト、私ガ此不動産ヲ所有シテ居ルト假定致シマセウ、此上ニ甲ナル者ガ地上權ヲ持ツ居ル、然ルニ私ガ此不動産ノ所有權ヲ乙ナル者ニ譲渡シタ、此場合ニ甲ハ初ハ私ニ對シテ權利ヲ持ツ居ッタノデアルガ此不動産ガ乙ノ所有ニ轉ジテカテ後モ矢張り乙ノ處ニ追フ駈ケテ行ツ己ノ權利、即チ地上權ト云フ權利ヲ行フコトガ出来ル、不動産デスト云フト權利ノ目的物ガ動タト云フコトガアリマセスカラ追フ駈ケテ行クト云フコトガ適切デナイヤウデスケレドモ、動産デアルト云フト最も能ク當嵌マル、此書籍ノ上ニ甲ガ或物權ヲ持ツ居ル、然ルニ私ガ此書籍ノ所有權ヲ乙ニ譲リタ、乙ハ之ヲ持ツテ歸ル持ツテ歸タノヲ

甲ガ跡カラ追フ駈ケテ行ツテ其書籍ノ上ニハ私ガ物權ヲ持ツテ居ルト曰フコトガ出来ル、ソレデ追及權ト云フ、斯ウ云フ譯デ追及權ト云フ、昔ハ動産デモ追フ駈ケテ行クトガ原則トシテ常ニ出来タモノデスカラ大變ニ追及權ノ言葉ガ適切デアッタノデスガ、今日ハ動産ハ容易ニ追フ駈ケテ行ケナイヤウニ爲ッタ居リマスカラ、追及權ハ多クハ不動産ニ付テ適用ガアルノデス、ソレデ此形容ガ少シ實際ニ適切デナイヤウニ爲ッタ居マスケレドモ、併シ理論上ハ動産ニモ不動産ニモ適用ガアル、チウシテ古來此言葉ハ法律語トシテ用ヒラレテ居リマスカラ、今日デモ矢張り皆追及權ト云フ言葉ヲ使フ、各國皆矢張り之ニ相當スル言葉ガアル、是ガ物權ニ付テハ存シテ居ルガ債權ニ付テハ存シテ居ラス、ソレモ初ニ申シタ物ニ付テ直接ノ關係ガ有ルト無イトノ違ヒデ、甲ハ此書籍ノ上ニ物權ヲ持ツテ居ルカラ直接ノ關係ヲ持ツテ居ル、ソレ故ニ若シ此書籍ガ私ノ手カラ乙ノ手ニ移ツテモソレヲ追フ駈ケテ行ツテ其物權ヲ行フコトガ出来ル、如何トナレバ甲ト物トノ間ニ既ニ法律上ノ關係ガ生ジテ居ルカラデス、之ニ反シテ單ニ甲ガ此書籍ヲ貰受ケル債權ヲ持ツテ居ルニ過ギスト云フヤウナ場合ニハ、物トノ間ニ直接

ノ關係ヲ持ツ居マセヌカラ、若シ縱令ソレヨリ後ト雖モ私ガ之ヲ他人ニ譲渡シテ即チ他人ガ此物ノ上ニ物權ヲ取得シテ仕舞ヘバ、モウソレニ對シテ債權ヲ行フコトガ出來ナイ、即チ債權ニハ追及權ガナイ、ソレデヌカラ例ヘバ甲ニ向テドシテ堅イ約束ヲシテ此書籍ヲ遺ルト曰フテ居ラモ、單ニ債權ノミ生ジテ居ル場合ナラバ、其後私ガ此書籍ヲ他人ニ譲フテ仕舞ヘバモウ仕方ガナイ、例ヘバ後ニ申上グルヤウニ損害ノ賠償ヲ求ムルト云フヤウナコトハ出來ヤウケレドモ、書籍其物ヲ得ヤウト思ウテモモウ得ルコトハ出來ナイ、即チ追及ノ權ガ無イト、斯ウ云フコトニ爲ルゾコガ物權ト債權ト異ナル所デアラテ、要スルニ效力ノ上ニ於テハ債權ハ物ニ如カナイト言ハナケレバナラヌ。

次ニ債權ノ緒論ノ第三ノ點ヲ論ジャウト思フ、ソレハ自然義務ノ御話デアリマス、此「自然義務」ト云フコトハ羅馬法カラ認メラレテ居ラコトデ今日歐羅巴各國ニ於テ多ク認メラレテ居ル所ノモノデアル、之ニ對シテ普通ノ債務ヲバ法定義務ト云フノデス、此自然義務ハ羅馬法ノ解釋トシテモ又歐羅巴各國ノ現行法ノ解釋トシテモ餘程議論ノ多イ所デアラテ頗ル困難ナル問題ノ一ツニ數ヘラレテ

居ルノデス、ボワッソナード氏ノ起草ニ係ル舊民法ニ於テハ是ガ爲メニ特ニ一章ヲ設ケテ規定シテ居ルノデス、去リナガラ舊民法ノ規定並ニ「ボワッソナード」氏ノ説明ハ頗ル其當ヲ得ナイ所ガアル、其重ナル點ヲ申スト云フト、舊民法ニ於テハ「債務」ノ定義ヲ下スニ當ラテ「債務」トハ人定法又ハ自然法ノ羈絆デアルト云フコトヲ申シテ居ルノデス、舊民法財産編第二百九十三條ノ第二項ニ「義務ハ一人又ハ數人ヲシテ他ノ定マリタル一人又ハ數人ニ對シテ或ル物ヲ與ヘ又ハ或ル事ヲ爲シ若クハ爲ササルコトニ服從セシムル人定法又ハ自然法ノ羈絆ナリトアル、此定義ヲ讀ム者ハ必ス奇異ニ感ズルデアラウト思フ、如何ニ「ボワッソナード」氏ガ自然法論者デアルトモ何故ニ態態此處ニ「債務即チ義務」ノ定義ヲ下スニ當ラテ「人定法又ハ自然法ノ羈絆」ト言ッタデアラウカ、舊民法ノ數多キ簡條ノ中デ特ニ「自然法」ト云フモノヲ明文ニ掲ゲタノハ蓋シ此處丈デアラウト思フ、今記憶ニ存シテ居ルノハ外ニ無イノデス、債務ガ自然法ノ羈絆デアラナラバ物權モ自然法ノ權利「ボワッソナード」氏ハ所有權ハ自然法ノ認メテ居ル最モ主ナル權利トシテ居ルノデアアル、ソレモハ特ニ「自然法ノ權利」ダト云フヤウナコトハ言フ

ヲ居ラス、例ヘバ財産編ノ第三十條ニ所有權ノ定義ヲ下シテ居リマスルガソレニハ所有權トハ自由ニ物ノ使用收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ謂フトアツテ自然法云云ト云フヤウナ文字ハ無イナセ債務ニ付テノミ此ノ如キ文字ヲ用ヒタデアラウカト云フノガ此箇條ヲ讀ンダ者ノ忽チ感ズル所ノ一點デアルト思フノデス所ガボワッソナード氏ノ考デハ此言葉ハ次ノ條ニ對スル一ノ伏線デアツテ財産編ノ第二百九十四條ニ人定法ノ義務ハ其履行ニ付キ法律ノ許セル諸般ノ方法ニ依リテ債務者ヲ強要スルコトヲ得ルモノナリ自然ノ義務ニ對シテハ訴權ヲ生セスト云フコトガアル此箇條ト只今ノ定義ト相對照シテ見ルトキニハ定義中ノ人定法ノ義務ト云フノハ取リモ直サズ此處ニ謂フ所ノ人定法ノ義務ト云フノデアアル之後ニハボワッソナード氏モ法定義務ト言フテ居リマスニボワッソナード氏ノミナラズ法文ニモサウ云フ風ニ書イタル自然義務ニ關スル簡條ハ財産編ノ第五百六十二條ヨリ第五百七十二條ニ至ル十一箇條デアアル自然義務ニ付テ此ノ如キ委シイ規定ヲ存シテ居ル例ハ殆ドアルマイト思フ其箇條中ニ法定義務ト云フコトガ到ル處ニ使ウタル所謂人定法ノ義務ト云フノハ

取リモ直サズ法定義務ノ意味デアツテ此處ニ謂フ自然ノ義務ガ前ノ定義ニ照シテ考ヘテ見ルト自然法ノ義務ト云フコトニナル是ハ法文ヲ讀ンデモ殆ド疑ノナイ所デアアルガボワッソナード氏ノ説明ニハ最も明カニ之ヲ論ジテアルノデス法定義務ハ人定法ノ義務デアリ自然義務ハ自然法ノ義務デアルト云フ是ガ非常ニ誤ラ居ルノデアアル外國ノ學者ニモ類似ノ事ヲ申ス者ハアリマスゲレドモボワッソナード氏ノ如ク明瞭ニ言フテ居ル者ハ寧ロ少イガ併シハ確ニ誤ラテ居ルト思フ先づ第一ニ我我ノ如キ自然法學者カラ言ヘバ自然義務ノミニハ限ラナイ所有權ト云ヒ賃借權ト云ヒ其他一切ノ權利普通ノ債權ハ皆表カラ言ヘバ法定義務デアアルガ其法定義務ト云フモノモ大抵皆自然法ニ適ツタモノデアアル自然義務丈ケガ自然法ニ適ウテ居ルノデ跡ハ自然法ニ適ハナイノデアアルカト言ヘバ決シテサウ云フ譯デハナイボワッソナード氏ト雖モ決シテサウ云フ趣意ヲ論ジテ居ルノデハナカラウト思フ然ラバ是レ丈ケテ自然法ノ義務或ハ自然法ノ義務ト云フノハ誤ラテ居ルノデ外ノ債務モ矢張り自然法ノ債務デアアル自然法ノ義務デアアル即チ此一點ニ於テ既ニ舊民法ノ規定並ニボワッソナード氏ノ

説明ト云フモノハ誤ラ居ルト思フノデス、唯強ヒテ之ヲ辯解スレバ成程他ノ權利義務モ多クハ自然法ニ依テ認メラレ居ルケレドモ併シ同時ニ人定法ニ依テ認メラレ居ルノデアル故ニ言ハバ自然法ト人定法トニツノモノニ依テ認メラレ居ル所ノ權利義務デアルト言フヲ宜シイ、之ニ反シテ所謂自然義務ハ自然法ノミニ依テ認メラレ居ルノデアルカラソレデ之ヲ自然法ノ羈絆ト云フノデアルト「ボワッソナード」氏ハ多分此ノ如ク辯解スルデアラウト思フ、併シ尙ホ一點確ニ「ボワッソナード」氏ノ誤ラ居ル所ガアル、ソレハ何デアアルカト云フト若シ其意味デアアルナラバ自然義務ト云フモノガ人定法中ニ規定シテ無イ答ナシデス、ソレナラバ兎ニ角一應理窟ガ通ル、羅馬ニ於テハ正ニサウデアッタ所ガ今日ノ歐羅巴各國ノ法律デ所謂自然義務ヲ認メラ居ルノハ矢張り立派ナ明文デ之ヲ認メラ居ル就中舊民法ノ如キハ今申シタヤウニ外ニ殆ド例ヲ見ナイ十一箇條ト云フ委シイ規定ヲ設ケテ居ルノデス、ソレデモ是人定法ノ義務デハナイ、人定法ノ羈絆デハナイ單ニ自然法ノミニ羈絆デアルト云フコトガドウシテ言ハレルデアラウカ、是ハ確ニ誤ラ居ル、自然法ヲ認メラ居ル國ノ學者デモ悉

ク此ノ如キ誤ラ事ヲ唱ヘテ居ルノデハナイ、然ラバ「自然義務」トハ如何ナルモノデアアルカ、定義ヲ下スコトハ極メテ困難デアルノデス、是ハ何ゼカト言ヘバ第一ニ國國デ多少其效力ガ違フノデス、殊ニ羅馬法ノ自然義務ト云フモノト今日歐羅巴ノ法律ニ於テ認メラ居ル自然義務ト云フモノトハ餘程效力ガ違フノデス、ソレヲ總テ包括スルヤニ定義ヲ下スノハ頗ル困難デアアル、強ヒテ其定義ヲ下セバ此ノ如ク言フコトガ出來ルデアラウカト思フ、「自然義務」トハ訴權ニ依テ保護セラレザル所ノ債務デアルト、此意味ハ獨逸ノ言葉デ之ヲ言表ハシテ居ルノデアアル「自然義務」ト云フ言葉ハ矢張り直譯スレバ「自然義務」トナル言葉ヲ使フ「ナト」ラールオブリガチヨーン」ト云フ所ガソレニ對シテ丁度「法定義務」ニ當ル「ハタラグバール」レ、オブリガチヨーン」(訴ヘ得ベキ債務デアアル、即チ訴權ニ依テ保護セラレテ居ルモノト然ラザルモノトデ法定義務ト自然義務トヲ分ツト云フ趣意ガ現ハレテ居ル、此「自然義務」ト云フ字ハ羅馬デハ「オブリガチヨ、ナト」ラリス」ト言タ、ソレヲ各國大抵直譯シテ居ル、例ハ佛蘭西デ「オブリガチヨ、ナチュレール」、獨逸デモ「ナト」ラール「オブリガチヨ、ナト」言ヒマス、日本デモ直譯シテ「自

然義務ト云フゾレニ對シテ佛蘭西デハ例ヘバ「オブリガション、シヴール」ト云フ、ボワソナード氏モ矢張り「オブリガション、シヴール」ト言フテ居ル、ソレヲ舊民法デハ「法定義務」ト譯シタ、所ガ獨逸デハ「クラグバール、オブリガチオン」ト訴ヘ得ベキ債務ト云フ、故ニ獨逸ノ言葉ハ稍ヤ私ノ今下シタ定義ニ倣マルヤウデア

先ヅ羅馬ニ於テ自然義務ト云フモノガ如何ニシテ發達シタカ而シテ如何ナル效力ヲ有タカト云フコトヲ極ク簡單ニ申上グチバナラス、何ゼカト云フト歐羅巴ノ現行法ニハ此ノ規定ガ極メテ少イ、而シテ是ハ羅馬法ノ遺物デアアルノデスカラ勢ヒ羅馬法デドウデアタカト云フコトヲ論ゼンケレバナラス、羅馬法ニ於テハ成程私法ハ比較的能ク發達シテ居タノデス、今カラ考ヘテ見レバ兎ニ角二千年ノ昔ニ在テ能クアレマデニ法律ガ發達シタモノデアアルト思ハレル、寧ロ羅馬ノ盛デアタ時ヨリ一時ハ法律ガ退步シタモノデアアル、去リナガラ今日ヨリ之ヲ見レバ尙ホ頗ル幼稚デアタト云フコトヲ免レス、就中明カニ法律トシテ定メタ文章ハ極メテ少ク且不完全デアアル、基ク所ハマダ羅馬ノ半開デアタ時ニ出來

タ十二表法十二銅表トモ譯スルモノデアアル(十二箇條ノ法律デアッタ、後世多少ソレヲ補フタニ相違ナイケレドモ基ク所ハソレナンドス、半開ノ時勢ニ出來タ僅カ十二箇條ノ法律デスカラソレデ進歩シタ社會ヲ支配シテ行クコトノ出來ヌノハ知レタコトデアアル、勿論當時ノ裁判官ハ餘程廣大ナル權限ヲ持ッテ居リマシタカラ多少法律ノ不備ヲ補フコトガ出來タ、隨分司法官ガ立法權ノ一部ヲ持ッテ居ッタト言フテモ差支ヘヌ位デアッタ、去リナガラ大抵ハ新ニ法律ヲ作ルト云フコトハシナイ、新ニ原則ヲ立タルト云フコトハシナイ、成ルベクハ其十二表法ニ基イテ解釋ノ力デ實際ノ必要ニ應ジヤウト努メタ、ソレハ餘程無理ナ事ナンドス、我國ノ今日ノ千百餘條アル民法デサヘモ實際適用シテ見ルト多少事實ニ倣ラヌコトガアル、ソレヲ稍ヤ廣ク解釋ヲシヤウトスルト直キニ今日ノ裁判官ハソレハ可カナイト言フテ反對スル位ナ譯デスケレドモ、如何ニ廣イ解釋ヲ取タ所ガタタ十二箇條ノ法律デ進歩シタ社會ヲ支配シヤウト云フコトハ如何ニモ無理ナ話デアアル、故ニ羅馬法ノ原則ノ中ニハ牽強附會若クハ琴柱ニ膠シテ琴ヲ彈クヤウナ無理ナ事ガ多イノデス、ソレデ今日ノ法律思想カラ見タナラバ同ジヤウ

ニ保護セラレナケレバナラヌニツノ場合ノ中デ甲ノ場合ハ保護セラレテ乙ノ場合ハ保護セラレヌト云フヤウナコトハ珍シクナイ、其上ニ羅馬法ハ非常ニ形式ニ拘泥スル所ノ法律デアッタノデス、故ニ一ツデモ形式ニ外レヌ事ガアルト云フトモウ法律ハ之ヲ保護セヌト云フノガ法律ノ正面デアルノデス、ケレドモソレデハ實際ノ必要ニ應ズルコトガ出來ヌ時ノ裁判官ガ常識ヲ以テ考ヘテ見テ如何ニモソレハ無理不當ダト云フコトヲ感ジタニ違ヒナイ、ソレデ成ルベクハ裁判官ノ權限デ出來ル丈ケノ事ヲシタノデアルケレドモソレハ及バヌコトガ多カッタ、斯様ナル場合ニ於テ或者ニ一定ノ義務ヲ負ハスルコトガ條理ニ適テ居ル即チ我我ノ言葉デ云フト自然法若クハ理想法ニ適フテ居ルト云フトキニ已ムヲ得ズ自然義務ト云フモノヲ認メタ、即チ法律ノ正面カラ云フト義務ハ無イノデアル、所謂法定義務ガナイト云フノハ其處ナンデス、隨テ裁判所ニ訴ヘテ請求シヤウト思ウテモ訴權ガ無イ併ナガラ所謂自然義務ト云フモノガ其場合ニ存シテ居ルカラ先ヅ債務者ガ任意ニ履行ヲ爲シタナラバ其履行ハ固ヨリ有效デアアル後デ之ヲ取返サウト思ウテモ取返スコトハ出來ヌ、ソレカラ此ノ如キ義務

ハ擔保ノ目的ト爲ルコトガ出來ル、保證債務ヲ以テ之ヲ擔保シ、抵當權、質權ヲ以テ之ヲ擔保スルト云フヤウナコトガ出來ル、段段種種ノ效力ヲ認メテ唯訴權丈ケハ認メナカッタノデアアル、此ノ如ク自然義務ヲ認メタ場合ガ羅馬法デハ最も多カッタ、今日ノ歐羅巴諸國デ認メテ居ル自然義務ノ數ヨリハ餘程羅馬ノ方が多カッタ、ケレドモ素ト此ノ如キ沿革ヨリ生ジタルモノデアルカラ是ガドレ丈ケノ效力ヲ有スルカト云フコトガ極メテ不明デアアル、沿革的ニ之ヲ言フナラバ裁判官ガ必要ニ應ジテ場合場合デ其效力ヲ認メタモノデアラウト思フ、隨テ區區ニ涉フテ居ル、同ジ自然義務デモ甲ノ自然義務ハ大變強力ナ效力ヲ有ツテ居ルガ乙ノ義務ハ頗ル薄弱ナ效力シカ有タスト云フヤウナコトガアッタ、ソレデ後世ノ學者ガ總テノ自然義務ニ同一ノ效力ヲ有タサウトシテ骨ヲ折ツテ却テ誤ニ陥ツテ居ルト私共ハ思フ、即チ私ノ意見ニ依レバ羅馬ニ於ケル自然義務ハ場合ニ依ツテ效力ガ違フタノデアアル、唯一ツ共通ノコトガアル、ソレハ何カト云ヘバ訴權ガ無イト云フコトデアアル、普通ノ債務ナラバソレニ基イテ訴ヲ起スコトガ出來ル、自然義務ニ付テハ訴ヲ起スコトガ出來ヌト云フ丈ケハ疑ナイト思フ、其他ハ場合ニ

依テ違フタト私共ハ思フケレドモ是非常ニ議論ノアル問題デスカラ今此處デ論ズル譯ニハ行カナイ、田中君ガ此處デハ羅馬法ヲ講義シテ居ル管デスケレドモ、此問題ニ付テハ私ノ意見ト違フカモ知レス、田中君モ是ニ付テハ佛國ニ於テ論文ヲ出シテ居ル、私モ自分ノ論文中ニ之ヲ論ジテ居ル、兎ニ角羅馬デハ此ノ如キ沿革デ以テ自然義務ガ發達シタ、後世法律ト言ヘバ羅馬デナケレバナラヌヤウニ歐羅巴デハ爲テ居タ、獨逸デハ數年前マデサウデアッタ、獨逸ノ普通法ト言ヘバ即チ羅馬法デアアル、サウ云フ有様デアッタカラ何デモ羅馬ニ在ッタモノハ是非ナクテハナラヌモノヤウニ心得タ、ソレデ大概ノ國デ皆自然義務ト云フモノヲ認メテ居ル、佛蘭西デモ認メテ居ル、和蘭デモ認メテ居ル、伊太利デモ認メテ居ル、ケレドモ私ハ夙ニ此自然義務ト云フモノノ餘程不條理ナモノデアアルト云フコトヲ信ジテ居ル、何ゼデアアルカト云フニ、若シ法律ガ自然義務ニ對シテ權利者ヲ保護スル必要ガアルナラバ他ノ義務ト同ジヤウニ保護シテ宜シイデハナイカ、若シ保護スル必要ガナイナラバ斷然ハ法律以外ノ問題トシテ例ヘバ道德上ノ問題トシテ仕舞テ宜シイノデアアル、ソレヲ中ヲラリンニ法律ガ保護シナ

イデハナイ併シ十分ニハ保護シオイト云フヤウナ曖昧ナモノニシテ置クト云フコトハ甚ダ理由ノナイコトデアアル、殊ニ此名ガ餘程奇妙デアアル、同ジク法律デ認メテ居ルノデス、羅馬デアッタ所ガ矢張り法律デ認メテ居ル、人定法デ認メテ居ルノデス、而シテ特ニ「自然義務」ト云フ名ヲ用ヒテ居ル、其名ガ既ニ餘程奇妙デアアルト思フ、ソレデ私ハドウモ此自然義務ト云フモノハ如何ニモ自分ノ胸ニ落チヌモノデアアルガ、何ゼ斯様ナモノガ存シテ居ラウカ、羅馬ニ存シテ居ッタト云フノハ理由ノアル事ニ違ヒナイガ、現在ノ各國ノ法律ニ於テモ唯羅馬法ノ真似ヲシタト云フ許リデモナカラウト、段段考ヘテ見ルト云フト要スルニ自然義務ハ是ニ依テ法律ノ不備ヲ補フモノデアアルト云フト私ハ考ヘル、羅馬法ハ極メテ不備デアアル、其不備ヲ補フ爲メニ已ムコトヲ得ズシテ此自然義務ヲ認メタ、法律ノ正面カラ言フト義務ハ無い、ケレドモ所謂自然義務ト云フモノガアルカラ一旦拂タモノハ取返ス譯ニハ行カヌ、若シ之ヲ抵當デ以テ擔保シタナラバ其擔保ハ有效デアアルト云フガ如ク段段其效力ヲ認メテ行タ、歐羅巴ノ現行法ニ於テモ多クハ皆サウデアアル、佛蘭西法ト云フ和蘭、伊太利ノ法律ト云ヒ何レモ不

完全ナモノデアル佛蘭西ノ法典ハ百年前ニ出来タモノデ當時拿破崙一世ガ非常ナ速力ヲ以テ此法典ヲ編纂セシメタゾレ故ニ編纂ノ當時ニ於テ既ニ數多ノ缺點ヲ持ツテ居ッタノデアル其事情ハ我國ノ法典ニ稍ヤ類シテ居ル所ガアル而モ當時ハ今日カラ見ル程ノ不完全デハナカッタウケレドモ今日カラ見タナラバ甚ダ不完全デアル所デ和蘭ノ民法ハドウデアルカ是ハ佛蘭西ノ民法ガ出来タカラ二十五年ノ後殆ド佛蘭西ノ民法ヲ其マ基礎トシテソレニ幾分カノ筆ヲ入レタト云フヤウナモノデアル伊太利民法ハソレヨリハ餘程後レテ即チ佛蘭西ノ民法ガ出来タカラ四十年ノ後ニ編纂セラレタモノデアルケレドモ矢張り太多數ノ簡條ハ同ジコトデアル隨テ缺點ガ非常ニ多イ成程其缺點ハ解釋ノ力裁判例等デ補ウテハ居ルケレドモ法文トシテハ頗ル缺點ガ多イ斯様ナ缺點ノ多イ法典ノ行ハレテ居ル國ニ於テハ矢張り自然義務ヲ認メル必要ガアッタデアラウカト思フノデス然ルニ今新ニ法律ヲ編纂スルニ當ラテ應ニ其缺點ヲ襲ウテサウシテソレト同時ニ缺點ヲ補充ニ必要ナル所ノ自然義務ヲ認メルト云フコトハ立法策トシテハ頗ル拙ナルモノデアルト私ハ思フ舊民法ノ如キ十九世

紀ノ終ニ出来タ法典ニ應ニ自然義務ニ關シテ十一箇條モ規定ヲ設ケルト云フノハ實ニ了解ニ苦ムコトデアルト私ハ思ウテ居ル而シテ其缺點即チ自然義務ニ依ツテ補ハルベキ所ノ缺點トハ如何ナルモノデアルカト云フト要スルニ一ツアルト私ハ思フ矢張り羅馬ニ於テ自然義務ノ必要ノ生ジタノト大體ハ同ジ原因デアラウト思フ先ヅ試ニ佛蘭西民法和蘭伊太利ノ民法等同一ノ模型ニ出来タ居ル所ノ法典此種類ノ法典ハ數多イノデス寧ロソレガ歐羅巴ノ多數ノ法典ニ就テ見マスルト第一ニ形式ヲ非常ニ重ジテ居ル跡ガ尙ホ殘ツテ居ルノデス即チ要式契約一定ノ方式ヲ履マナケレバ契約ガ有效デナイト云フ場合ガ中アル其主ナルモノハ贈與デアル贈與ハ佛蘭西デモ和蘭デモ伊太利デモ皆要式契約公證人ニ依ラナケレバ出来ヌト云フヤウナコトニ爲ツテ居ル併シソレバ隨分面倒デアアル故ニ勵モスルト其形式ヲ履マナイソレハ無効デアアル所デ私ガ自分ノ財産ヲ或人ニ與ヘルト云フコトヲ堅ク約束ラシ或ハ證文ヲ遺フアル併シソレハ公正證書デハナイ而シテマア私ハ死シタ相續人ガソレヲ知ツテ居ル此贈與ハ無効デアアルト云ハハ無論ソレデ法律ヲ濟ムケレドモ良心ニ問ウテ見

ルト云フトソレハ甚ダ面白クナイ、兎ニ角財産處分ノ自由ヲ持ツテ居ッタ人ガ其財産ノ一部ヲ或人ニ遺ルト云フ約束ヲシタ唯形式ヲ履マナカッタト云フ丈ケ、相續人ハ莫大ノ財産ヲ讓受ケテ濡手デ粟ヲ掴ムヤウナ利益ヲ得テ居ル、サウシテ偶、公正證書ガ無イカラト云ツテ自分ノ親其他ノ被相續人ガ現ニ與ヘルト云フ約束ヲ堅ク結ンデ、或ハ私ニ證文ノ遺リ取リマデシテ居ルモノヲ遺ラスデモ宜イ、公正證書ガ無イカラ是ハ無効ダト云フノハ如何ニモ穩デナイ、此場合ニ於テ相續人ガ良心ニ問ウテソレハ遺ッタ方ガ宜イト思ウテ遺ルノデス、而シテ後ニ爲テ自分ガ貧乏ニデモ爲ッタトキニソレヲ取返シタイ、ソレヲ取返スコトガ出來ルト云ッタナラバ随分不當ナ結果ニナリハセスカ、サウ云フ場合ニハ所謂自然義務ト云フモノヲ認メテ即チ相續人ガ與ヘタノハ任意ニ與ヘタナラバ有效デアル、成程受贈者ガ裁判所ニ訴ヘテ取ルト云フコトハ出來ス、併シ相續人ガ任意ニ之ヲ履行シタナラバソレハ有效デアルト斯ウ云フノガーツノ自然義務ノ場合多少議論ガアリマスケレドモ私共ハ佛國等ノ法律ニ據レバ此等ハ自然義務ト見テ宜カラウト思フ、何ゼサウ云フコトガ起ルカ、ハ取りモ直サズ贈與ト云

フモノニ公正證書ヲ要スルトシタ結果ナンデス、ソレサヘ止メレバソシナモノハ要ラス、縱令公正證書ヲ以テセズトモ贈與ヲ爲スト云フ約束ヲシタナラバソレハ遺ラナケレバナラスト斯ウ爲テ居レバ此場合ニ於ケル自然義務ノ必要ハ自ラ無クナツテ仕舞フ、今一ツハ佛蘭西法ニ於テハ而シテ是ハ和蘭法ニ於テモ伊太利法ニ於テモ佛蘭西法系ノ國ニ於テハ皆サウデス、契約ニ原因^〇ト云フモノヲ必要トシテ居ル、佛蘭西デ贈^〇フ「コーズ」英吉利デモ「コンシデレーション」ト云フモノヲ必要トシテ居ル、是ノ何物タルカハ餘程六ヶ敷イ問題ト爲^〇テ居ル併シ私ノ信ズル所デハ佛蘭西ノ「コーズ」ト云フモノハ當事者ガ契約上ノ債務ヲ負擔スルニ就テ有セシ法律上ノ理由デアラウト思フ、賣買ニ付テ言フト賣主ハ何ゼ自己ノ所有ノ或財産ヲ買主ニ與ヘルト云フコトヲ約束シタカ、ソレハ相手方ガ代價ヲ拂フト云フコトヲ約束シタカラデアル、是ガ即チ原因、買主ノ方カラ言ツテ見ルトナゼ其代價ヲ拂フコトヲ約束シタカ、ソレハ賣主ガ或財産ヲ已ニ與ヘルト云フコトヲ約束シタカラデアル、是ガ原因贈與ニ付テ言ツテ見ルト此場合ノ義務者ハ一人デ、贈與者デス、與ヘル方ニシカ義務ガナイ、其義務ノ原因ハト言ヘバ相手方ニ無

債ノ利益ヲ與ヘルコト言葉ヲ換ヘテ言フト相手方爲對シテ慈善ヲ施ス、慈善ヲ施スト云フコトデアアル、ソレガ法律上ノ理由即チ原因デアリ、其心ガ無クテハ贈與ハ成立セスト斯ウ云フ風ニ見タモノデス、其他各契約ニ付テ皆此原因ガ逆フノデス、デ佛蘭西法其他佛蘭西法系ノ國國ノ法律ニ於テハ此「コーズ」ト云フモノガナケラテハ契約ハ成立セス、契約上ノ債務ガ成立セスト斯ウ爲テ居ル英吉利「コンシデレ」シエン」ト云フモノハソレト少シタ趣ガ異ナラ居ルマスケレドモ非常ニ似タ所ガアル、是ハ非常ニ六ヶ敷イモノニ爲テ居リマスケレドモ概シテ言フタナラバ現實ノ利益ト言フテモ宜カラウト私ハ思フ、サウスルト佛蘭西「コーズ」ヨリハ又狭イ要スルニ斯様ナモノデ契約ノ要素トシテ居ル、或ハ此等ノ國ニ於テ法律行爲ト云フモノノ觀念ガ我民法ニ於ケルガ如ク發達シテ來ルト法律行爲ノ原因「ト云フモノガナケラニヤナラスト云フコトニ爲テ來ルカモ知レヌ、ソレガ果シテ理由ノアルコトデアアルカドウカ私ハ大ニ之ヲ疑フノデス、何時イ頃カラ佛蘭西デ「コーズ」ト云フモノヲ必要トシタカト云フコトハ一ツノ疑問デアアル併シ沿革的ニ申シタナラバ或ハ羅馬法ノ「カウザ、シグナリス」ト云フモ

ノカラ變遷シ來タモノデハナイカト思フ、羅馬法ノ「カウザ、シグナリス」ト云フモノハ其意味ガ極ク明瞭デ疑ノナイコトデス、例ヘバ羅馬法デ正式ノ契約ト言ヘバ四ツノ種類「フタ、私ハ之ヲ譯シテ言成契約、書成契約、事成契約、意成契約ト斯ク謂フノデアアル、其中デ「言成契約」ハ何ダ「カウザ、シグナリス」之ヲ直譯ニスルト「法定原因デス」デアアルカト言ヘバソレハ言葉デス、一定ノ言葉ヲ發スルト云フトソレデ債務ガ生ズル、ソレカラ書キ物ニ因テ成ル契約、書成契約「デ言フテ見ルト其書キ物デス」書キ物ト云フテ今日デ考ヘルト證書デモ書クコトノヤウニ人ガ思フデセウケレドモ羅馬デハナウデナイ、帳面ニ記入スルノガ「カウザ、シグナリス」ソレカラ「事成契約」ト云フノハ例ヘバ物ノ引渡デス、ソレガ即チ「カウザ、シグナリス」ソレガ無ケレバ羅馬デハ契約ト云フモノハ成立シナカッタ、最後ノ「意成契約」意思ニ因テ成ル契約ニ付テハ學者ガ見解ヲ異ニシテ居リマスケレドモ今羅馬法ノ講義デナイカラソレハ省ク、要スルニ羅馬デハ原則トシテ「カウザ、シグナリス」ガ無ケレバ契約ハ成立シナカッタ、併シ羅馬ノ「カウザ、シグナリス」ト云フモノト佛蘭西ノ「コーズ」ト云フモノトハ文字デハ同ジデスケレドモ九デ違フ、佛蘭西法デ「コーズ」

必要ヲ唱ヘテ居ル説明ハ斯ウデアル、人ハ道理ヲ備ヘテ居ル動物デアル、故ニ狂人ニ非ザル限ハ道理ノ無イ事ハモエ管デアル、唯何トハナシニ權利ヲ與ヘル、何トハナシニ金ヲ拂フトサウ云フコトハナイ管デアル、必ズ一定ノ原因ガアルニ違ヒナイ、即チ賣買ニ於テ何ゼ不動産ノ所有權ヲ與ヘル、ソレハ相手方ガ金ヲ拂フト云フカラデアル、相手方ハ何ゼ金ヲ拂フト云フカ、ソレハ其相手方タル賣主ガ或不動産ノ所有權ヲ與ヘルト云フカラデアル、又贈與デ言フヲ見ルト何ゼ何ノ某ニ金千圓ヲ與ヘルト云フカ、何ゼソレニ或不動産ノ所有權ヲ與ヘルト云フカ、ソレハ彼ニ慈善ヲ施ス爲メデアル、慈惠ヲ施ス爲メデアル、何カ原因ガアル管デアルト、斯ウ云フ所カラ少クモ今日デハ原因ノ必要ヲ説イテ居ル、此論ハ一應尤ノヤウニモ聞エル、成程道理無シニ人間ガ動作ヲ爲ス管ハ無イ、如何ニモ其通リデアル、如何ニモ其通リデアルカラ私ハ原因ノ必要ガ無イト思フ、狂人ニ非ザル以上ハ或義務ヲ負擔スルト云フ約束ヲスルニハ理由ガアルデアラウ、若シ理由ガ不法ノ理由デアルナラバ其義務ハ成立スルコトハ出来ナイ、是ハ如何ナル學說ヲ探ラウトモ如何ナル法律ノ下ニ於テモ同ジコトデアル、併シ別ニ不法ノ

原因ガナイナラバ如何ナル理由デ義務ヲ負フニモシロ、眞ニ義務ヲ負フ意思サヘアレバソレデ澤山デアル、即チ先刻ノ自然義務ノ場合ヲ考ヘテ見テモ自分ノ親ガ贈與ヲ爲スト云フ約束ヲシテ置イタ、其贈與ハ形式ガ缺ケタルガ爲メニ無効デアアル、併シ折角親ガ與ヘルト云フ約束ヲシタモノデアアルカラ相續人タル自分ハ之ヲ履行シタイト云フノナラバ履行シタモ少シモ差支ナイノデアアル、成程親ノ贈與トシテハソレハ有効デナイカモ知レヌガ、兎ニ角其相續人タル者ガ是太クノ財産ヲ與ヘヤウト斯ウ言フタナラバソレハ法律上有効トシテ宜シイ、勿論先刻申シタ通り贈與ニ此ノ如キ形式ヲ要スルトシタノハ誤デアルトシタモ必ズシモ自然義務ヲ認メナケレバナラヌト云フコトハナイ、況ヤ他ノ場合、一ツノ例ヲ言フト債務ガ時効ニ因テ消滅シタ場合はハ如何ナル國ノ法律デモチヤントサウ爲テ居ル、文明國ノ法律ガ時効ヲ認メヌト云フコトハアリマセヌカラ必ズアル、英吉利法ハ純然タル時効ヲ認メマセヌケレドモ實際同ジコトデス、文明國ノ法律ニハ必ズ時効ガアル、時効ニ因テ或債務ガ消滅スルニ若シ債務者ガ確ニ借リタニ相違ナイ、借リタ物ヲマダ返ヘサヌニ相違ナイト思フノニ、ソレヲ唯

一時都合上時效ヲ援用シテ債務ヲ免レタ併ナガラ良心ニ問ウテ見ルト頗ル面白クナイ、ドウカシテ矢張り拂ヒタイト斯ウ云フ時ニ舊民法ヲ採テ其場合ニハ自然義務ガアル、即チ債務者ガ拂フモノハ自然義務ノ履行デアルト斯ウ云フノデス、ケレドモ何モサウ云フ風ニ認メヌデモ宜イ、前ノ債務ハ消滅シタニ違ヒナイガ併シ甲ガ乙ニ對シテ或義務ヲ負ヒタイト云フ意思ヲ明カニシタナラバソレニ效力ヲ持タシテ宜シイ、拂フモノハ後トカラ取返スコトハ出來ヌトモチバナナラヌ、法律的ニ言フタナラバ矢張り一ツノ贈與デセウ、贈與デモ構ハヌ、贈與ト云フモノガ素ト慈惠心ガ無ケレバ成立タヌト云フノガ間違テ居ル、贈與ト云フモノハ必ズジモ慈惠心ト云フモノガナクテモ宜イ、唯相手方カラ債ヒヲ取ラズシテ或財産ヲ與ヘルノガ贈與デアルト斯ウ言ヘバ今ノモ贈與デアル、是ガ原因ノ必要ト云フモノヲ認メルトサウ云フ譯ニハ行カヌノデス、第一ノ例デ親ガ贈與ヲ爲スト云フ約束ヲシテ置イタ、ソレガ形式ガ缺ケテ居タ、其子ガ之ヲ履行シヤウト思ウテ或財産ヲ與ヘタ、此時ニ我我ハ之ヲ新ナル贈與即チ相續人ノ爲ス所ノ一ツノ贈與ト見ル所ガ佛蘭西法ハ曰クサウデナイ相續人ガ相手方ニ慈惠

ヲ施スト云フ意思ガ無イ、親ノ約束ヲ履行スルト云フ意思デアッタ、ソレダカラソレハ贈與トシテハ成立シナイ、贈與ト云フモノハ慈惠ヲ施スト云フ意思ガナケレバナラヌト、斯ウ云フノデアルカラ、若シ此場合ニ自然義務ヲ認メナカッタバ相續人ガ爲シタル行為ハ無効デアルトドウシテモ言ハナケレバナラヌ、ソレハ誠ニ殘念ノコトデアル、何トカ名義ガ附クマイカ宜シイ、自然義務ノ履行デアル、即チ一ノ辨濟デアルカラ有効デアル、即チ「辨濟」ト云フノハ或債務ヲ消滅セシメルト云フ意思ガアルモノデアル、ソレガ即チ原因デアアル、第二ノ例デモ其通り、時効ニ因テ消滅シタル所ノ債務ヲ新ニ負擔スル或ハ新ニ履行スルノハ、我我ハ之ヲ「贈與」ト云フケレドモ佛蘭西法ハ曰ク贈與ニ非ズ、如何トナレバ慈惠心ガ無イ、寧ロ前ニ存シテ居タ債務ヲ履行シヤウト云フ意思デアアル、其債務ハ法律上成立シテ居ラス、サウスルト原因ガナイト斯ウナル、ソコデ何トカシテ之ヲ活カシタイモノダ、宜シイ、自然義務、前ニ消滅シタ債務ハ自然義務ノ形デ存シテ居ル、即チ其債務ヲ消滅セシメルト云フ意思ガアル、是ガ即チ一ツノ原因デアルト斯ウ云フコトデ原因ノ必要ヲ認メタノガ誤デアッタ、其誤デアッタコトヲ悟ラズシテ

救済ノ一ツノ方法トシテ自然義務ヲ認メテ居ル(英法ニ於テモ、コンシデレーションノ必要ヲ認メテ居ル)故ニ自然義務ヲ認メテ居ルヤウデアル(即チ本ニ週ラ言フト第一ニハ必要ナラザル形式必要トシタ爲メ、第二ニハ必要ナラザル原因ヲ必要トシタ爲メ、佛蘭西法和蘭法、伊太利法等ニ於テハ自然義務ノ必要ヲ成シタメデアリマス、併シ必要ナラザル形式ヲ廢シ又原因ノ如キモノヲ契約ノ要素トシナカッタナラバ最早自然義務ノ必要ハ無イ即チ我民法ノ如キハ一方ニ於テ贈與ト雖モ必ズシモ公正證書ヲ作ラニヤナラスト云フヤウナコトハナイ、書面ヲ以テスルゾト然ラザルトハ效力ニ多少ノ差異ハアリマスケレドモ、兎ニ角口頭ヲ以テスル贈與ト雖モ矢張り法律上有效デアル、其點ニ於テハ自然義務ノ必要ガ無クナル、第二ニハ契約ノ要素トシテ原因ト云フモノヲ認メナイカラソレデ益、自然義務ノ必要ハ無クナッタハデアアル、岡松君ガ此原因ノ必要ト云フコトヲ法學志林デ論ジテ居テヤウデマスガ、佛蘭西デ謂フ所ノ原因ト云フモノトソレカラ權利發生ノ原因ト云フモノヲ或ハ混シテ居リハシナイカト思ヒマス、債務發生ノ原因ト云フモノガナケレバ債務ガ發生シナイケレドモ佛蘭西法デ謂

フ所ノ原因ハソレデハナイ(註釋書見、債權發生ノ原因ハ、或モハ契約以上ニテ新民法ガ「自然義務」ト云フモノヲ認メナカッタコトヲ説明致シマシテ隨テ現行ノ民法ニハ最早「法定義務」「自然義務」ト云フ區別ハ全ク無クナッタト云フコトヲ申上ゲルノデアアル、是ガ債權ノ緒論ノ第三點デアアル、
次ニ第四點債權發生ノ原因、此原因ハ我法典ニ認ムル所ノモノガ五ツアル、第一ハ法律行為、最モ其重ナルモノハ契約デアアル、ソレニ續イテ重ナルモノハ遺言デアアル、第二ニハ事務管理、事務管理ト云フノハ他人ノ事務ヲ義務ナクシテ管理スルノデス、人カラ頼マレタノデモナシ法律ガ命ジテ居ルノデモナイニモ拘ハラズ他人ノ事務ヲ管理スル、之ヲ名ケテ「事務管理」ト謂フ、サウスルト一定ノ義務ガ雙方ニ生ズルノデス、管理者ニモ生ズレバ本人ニモ生ズル、ソレカラ第三ニハ不當利得、是ハ法律上ノ原因ナクシテ此處ノ原因ハ即チ權利發生ノ原因デス、他人ノ損害ニ於テ利益ヲ受ケタ者ハ其利益ヲ被害者ニ返還スル義務ガアル、一ツ例ヲ申上ゲルト直グ分ル、私ガ甲ト云フ者カラ金ヲ千圓借りテ居ッタ、ソレヲ返サウト思ウテ誤ラテ乙ノ處ニ持ッテ參ッタ、ソレヲ乙ガ受取ッタノデス、此場合ニ於テハ乙

ハ其金ヲ受取ル權利ハナイノデス、即チソレヲ受取ルベキ法律上ノ原因ハナイノデス、然ルニ乙ハソレヲ受取、其結果ハドウデアアルカト云フト私ハ拂ハイデモ宜イ、千圓ヲ拂、タコトニナルカラ千圓丈ケ損害ヲ受ケルサウシテ乙ガソレ丈ケノ利益ヲ受ケルカラ是ハ不當利得之ヲ私ニ返サヌケレバ乙ナル者ハ即チ不當ニ得ヲシテ私ガ不當ニ損ヲスルコトニナルカラソレデ返還ノ義務ガアル、第四ハ不法行為、他人ノ權利ヲ侵害シテ之ニ因、テ損害ヲ加ヘタ者ハ其損害ヲ賠償スル義務ガアル、私ガ他人ノ所有ニ屬スル所ノ家屋ヲ壊シタ、犬ヲ殺シタト云フヤウナ場合ニハ即チ他人ノ所有權ヲ害スル、サウシテ所有者ハ之ニ因、テ損害ヲ被ルノデス、家屋ヲ全部壊セバ其價丈ケノ損害ヲ被ル、犬ヲ殺セバ犬ノ價丈ケノ損害ヲ被ル、ソレハ賠償シナケレバナラス、即チ此場合ニ於ケル義務ノ原因ハ不法行為、終ニ第五ニ法律ノ規定カラ直接ニ債務ノ生ズル場合、勿論債務ハ皆法律ノ規定ニ因、テ生ズルト言、テモ宜イノデス、契約カラ義務ガ生ズルト言ヒマスケレドモ即チ法律ガ或契約ニ此ノ如キ效力ヲ認、メルカラデアアル、事務管理カラ義務ガ生ズルト云フガソレハ法律ガ此ノ如キ效力ヲ認、メルカラデアアル、斯様ニ

論ジタナラバ一切ノ債務皆法律ノ規定ヨリ生ズルト言、テモ敢テ差支ハナイ併シ一旦法律ガ契約カラ債務ノ生ズルモノデアアル、事務管理カラハ斯ク斯クノ債務ガ生ズルモノデアアルト言ヘバ其契約、其事務管理ト云フモノヲ何人ガ爲シテモ如何ナル場合ニ其事柄ガ事實ニ生ジテモソレガ必ズ義務ヲ生ズル間接ニハ法律ノ力デ其義務ガ生ズルト云ヘルケレドモ、直接ニハ契約ソレ自身ガ債務ノ原因デアアル、事務管理ソレ自身ガ債務ノ原因デアアルト斯ウ言ハナケレバナラス、然ルニ今此處ニ謂フ所ノ法律ノ規定ニ因、ル債務ト云フノハ直接ニ法律ノ規定カラ生ズルモノ、ソレハ枚舉ニ遑アラヌノデス、ホソノ一二ノ例ヲ申上グルト扶養ノ義務ノ如キハ其著シキモノノ一ツデ、父ハ子ヲ養フ義務ガアル、子ハ父ヲ養フ義務ガアル、是ハチャント法律ニ其通リニ書イテアルノデスカラ何モ約束ヲモイデモドウ云フ行為ヲ爲サナク、テモ唯親子ノ關係ト云フモノガアレバ法律ガサウ云フ義務ヲ負ハス、是ハ法律ノ規定カラ直接ニ生ズル所ノ債務デアアル、ソレカラ後見人ノ義務ナドト云フモノモ矢張り法律ニ依、テ直接ニ定メラレタモノデアアル、是ハ所謂「事務管理」デハナイ、法律ガ後見ノ義務ヲ負ハセタ法律ニ定メ

タル條件ノ下ニ指示サレタル所ノ人ハ必ズ後見人ト爲テソレ式ケノ義務ヲ盡
カンナラヌト云フコトガチャント法律ニ書イテアル、是ハ矢張り法律カラ直接
ニ生ズル所ノ債務親權者ニ付テモ同様デアル、親族會員ニ付テモ同様デアル、ソ
レカラ少シ趣ノ異ナラズモノデ是ハ議論ノアル問題デスケレドモ納税ノ義務ヲ
ト云フモノガ私ニ言ハセルト云フト矢張り法律ノ規定カラ直接ニ生ズル所ノ
債務デアル、納税ノ義務ガ債務ナルヤ否ヤト云フノハ公法學者ノ間ニ議論ノア
ル問題デアル、ケレドモ私ハ一ノ債務デアルト云フコトヲ疑ハナイ、嘗ニ私ガ疑
ハナイノミナラズ現行ノ法律ニ明カニ之ヲ債務トシテ認メテ居ル例ハ幾ラモ
アルノデス、第一所得稅徵收法モ私ノ目カラ見ルト之ヲ債務トシテ認メテ居ル
ヤウデアル、ソレカラ破産法即チ舊商法ノ尙ホ效力ヲ存シテ居ル部分ノ中ニ債
權トシテ「稅」ガ列舉シテアル、併シ是ハ公法ノ問題デスカラ今此處ニ委シク論ズ
ルコトヲ致シマセヌ、一旦之ヲ債務デアルト言ヘバ即チ法律ノ規定ヨリ直接ニ
生ズル債務デアル、地租條例ニ斯ク斯クト書イテアルカラ地租ヲ納メル義務ガ
生ズル所得稅法ニ斯ク斯クト書イテアルカラ所得稅ヲ納メル義務ガ生ズル、他

モ皆其通り、此二三ノ例ニ依テ諸君ハ御分リニナッタラウ、諸リ委シク言ヘバ債
權債務ハ皆法律ノ規定カラ生ズルト言フモ宜イケレドモ其中デ稍ヤ主ナルモ
ノハ特ニ法律ガ概括の規定ヲ設ケ、斯様ナル事實ガアッタラバ斯ク斯クノ義務ガ
アルト斯ウ云フコトヲ定メテ居ル、ソレガ民法ニ於テ四ツアル、法律行為、事務管
理、不當利得及ビ不法行為其他ノ場合ハ概括的ニ規定セズシテ箇箇別別ニ之ヲ
規定シタ、ソレガ所謂法律ノ規定ヨリ直接ニ生ズル債務デアルト、斯様ニ言フベ
キデアラウト考ヘマス、是ガ緒論ノ第四點

終ニ第五點ハ本編ノ章別ノコトデアリマス、本編ハ法文ニモ其如クナッタ居リマ
スルガ又學理上モソレ宜カラウト思フ、第一ガ總則此中ニハ各種ノ債權ニ通
ズル事ガ掲ゲテアル、即チ今申シタ發生原因ノ如何ニ拘ハラズ苟モ債務デアル
ナラバ是式ケノ效力ガアルト云フヤウナコトハ總て是ハ債權ノ總則ソレカラ
第二ガ契約即チ債權發生原因ノ最も主ナルモノノ一ツナル契約ニ關スルコト
即チ法律行為ノ中デモ遺言ニ關スルコトハ是ハ相續ト密接ノ關係ヲ有テ居ル
カラ法律ニモ相續編ニ規定シテアル、講義モ相續編ト合セテ之ヲ爲スノガ普通

デアル、サウスルト主ナルモノハ契約デスカラ契約ト爲テ居ル、其次ガ事務管理、不當利得、不法行為、總則ヲ除イテハ皆債權發生ノ原因デアル、其原因ニ依テ同ジク債權デアリナガラ多少効力ヲ異ニスル所ガアル、或ハ言葉ヲ換ヘテ言フト契約カラハ如何ナル種類ノ債權ガ生ズルカ、事務管理不當利得不法行為カラハ如何ナル債權ガ生ズルカト云フコトガ定メテアル、法律ノ規定ヨリ直接ニ生ズル債權ノ如キハ其各規定ニチヤント定マテ居ル、先刻ノ一二ノ例ニ就テ言フヲ見テモ扶養ノ義務ハ親族編ニ委シク規定ガ出來テ居ル、ソレカラ後見人ノ義務親權者ノ義務、親族會員ノ義務ノ如キモ皆ソレノ親族編ニ規定ガアル、納税ノ義務ハ税法ニ皆其規定ガアル、ソレデスカラ特ニ債權編ニ規定シテ居ル處ハ無イノデス、斯様ナ譯デアリマスルガ、私ガ此學年ニ於テ擔任シテ居ル所ノ部分ハ此講義ノ初ニ申上グタ通り今ノ第一章總則ノ中デ而モ一部分デアル、ソレハ如何ナル部分デアルカト言ヘバ勢ヒ此總則ニドレ丈ケノコトガ規定シテアルカト云フコトヲ申サンナラス、即チ第一章總則ノ中ニハ第一ニ債權ノ要素ノコトガ規定ニ爲テ居ル、法文ノ表題ニハ目的トナルノデス、次ニ債權ノ効力、次ニ多數當

事者ノ債權、多數當事者ノ債權ト云フノハ債權者ガ數人アリ若クハ債務者ガ數人アル場合ヲ云フノデス、次ニハ債權ノ讓渡、終ニ債權ノ消滅、斯ク五節ニ爲テ居ルノデス、此中デ私ノ擔任シテ居ルノハ初ノ三節デアル、第一ハ要素第二ガ効力、第三ガ多數當事者ノ債權、此三ツデアル、先ヅ第一節債權ノ要素ノ御話ヲ致シマ

第一節 債權ノ要素

此債權ノ要素ト云フ言葉トソレカラ法律行為ノ要素ト云フ言葉ト混ジテハナラヌノデス、似寄タモノデアルカラ餘程混ジ易イニ依テ豫メ申上グテ置ク、法律行為ノ要素ノ意味ハ實ハ餘程不服デス、民法デ法律行為ノ要素ト云フモノハドンナモノカト言フタラ殆ド人人デ其説明ガ異ナルデアラウト思フ、私ハ民法ニ謂フ法律行為ノ要素ト云フノハ諸リ法律行為ノ目的ト云フコトニ歸著スルト思フノデス、極ク正確ニ云フト法律行為ノ要素ハ二ツアルト言フテ宜カラウト思フ、ソレハ何デアアルカト云フト一ハ意思表示ト云フモノガナケレバナラス、或

人ノ意思ガ表示セラルルト云フコトガ必要ナシデス、ソレカラ其意思表示ト云フモノハ一定ノ目的ヲ持ツテ居ラニヤナラス、此ニツガ要素デアルト思フ、併シ民法ニ法律行為ノ要素ト云フ言葉ノ使ウテアルノハタツタ一箇處デアリマス、ソレハ法律行為ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ云「ト斯ウ云フコトニ爲テ居ル、ソレハ第九十五條デ、錯誤ト云フ以上ハ意思表示ノアルト云フコトヲ前提シテ居テ、サウシテ其意思トソレカラ表示シタモノトガ齟齬シテ居ルト云フコトヲ意味シテ居ルノデスカラ、第一ノ要件ハ當然存シテ居ルコトヲ前提シテ居ル、例ヘバ狂人ガ或コトヲ言フモソレハ意思ガ無イ即チ意思表示ガナイ、デカラ目的ハドンナ立派ナ目的デモ何ニモナラス、即チ法律行為ノ要素ガ缺ケテ居ル、併シソレハ錯誤ガアルトハ言ヘナイ、サウ云フ時ニハモウ錯誤ドコロノ騷デハナイ根本ノ意思ト云フモノガ無イノデスカラ問題ガ起ラス、ソレデカラ「錯誤云」ト云フ時ニハ既ニ意思ハ有ルト云フコトヲ前提シテ居ル、即チ或人ノ意思トシテ表示セラレタモノガアルト云フコトハ明カデアル、サウスルト詰リ此法律行為ノ要素ニ錯誤アリト云フノハ私ニ言ハセルト「法律行為ノ目的ニ錯誤アリト」言フ

宜シイト思フ、唯此目的ト云フ言葉ハ從來兎角狭イ意味ニ用ヒラレ來テ居ル、故ニ誤解ヲ招キ易イカラソレデ要素ト云フ字ガ使フテアル、例ヘバ先刻申シタ贈與ノ場合ハ私共カラ言ハセルト目的ト何ダト云フト一定ノ人ニ或財産ヲ與ヘルト斯ウ云フコトデアラウト思フ、一定ノ人ト云フモノハ目的ノ中ニ這入テ居ル、成程贈與ノ中ニ稀ニハサウデナイノガアリマス、金持ガ祝事ガアルカラト云フノデ店先ニ餅ヲ抛ル誰デモ來テ拾テ宜シイト斯ウ云フノガアリマスガ、サウ云フ特別ノ場合ヲ除イテ普通ノ贈與ト言ヘバ或人ニ或財産ヲ與ヘルト斯ウ云フノデアル、誰デモ構ハヌ此土地ヲ遺ル誰デモ構ハヌ金錢ヲ遺ルト、ソシテ意思デハナイカラ相手ノ誰ト云フコトハ目的ノ中ニ這入テ居ルト思ヒマス、デスカラ若シ是ガ間違フテ居テ甲ニ與ヘルト云フノガ實際ハ乙ニ與ヘルト云フコトニ爲テハソレハ法律行為ノ要素ニ錯誤アルト云フコトニナル、所ガ從來法律家ガ「目的」ト云フ言葉ヲバサウ云フ廣イ意味ニ用ヒテ居ラス、今ノ場合ニハ當事者ニ錯誤ガアルト斯ウ云フノデス、併シ當事者ニ錯誤ガアルトモ必ズ法律行為ノ要素ニ錯誤アルトハ言ヘナイ、普通ノ賣買デ例ヘバ私ガ所有ノ不動産ヲ賣ラウソレ

ヲ甲ナル者ガ一定ノ條件ヲ以テ買ハウト云フ代價一萬圓ナラ一萬圓ソレハ即時拂ナラ即時拂、一箇月後ニ拂フノナラバ一箇月後ニ拂フ、ソレデ宜シト言フ、承諾ヲシタナラバ實際甲ガ自ラ買フノデモ乙ガ買フノデモ又ハ甲デアルト思ウテ談判シタガソレハ實際乙デアッタト云フ人違ノ場合デアラウトモ、ソレハ所謂法律行為ノ要素ニ錯誤ガアリハシナイ、要素ハ何カ私ノ方デハ或不動産ノ所有權ヲ與ヘル相手方ノ方デハ私ニ金錢ヲ拂フト斯ウ云フノデス、ソレニサヘ錯誤ガナケレバ契約ハ絕對ニ成立シテ仕舞フ、ソレダカラ當事者ガ法律行為ノ要素トハ一般ニ言ヘナイ、併シ贈與ノ場合ノ如キハソレガ要素ニナル、所ガ債權ノ要素ト言ヒマスルト少シク違フ、債權ノ要素ハ先ヅ必ズ三ツアルト言フモ宜カラウト思ヒマス、第一ハ債權者、第二ニハ債務者、第三ニハ目的、此目的ハ先刻ノ意味ヨリハ意味ガ狭イ、債權ノ發生原因如何ニ拘ハラズ必ズ此三ツノ要素ハアル、先ヅ普通ノ債權發生ノ原因ハ蓋シ貸借デアリマセウ、ダカラ「債權」コトヲ貸ト云ヒ、債務「コト」ヲ借ト云フ、如何トナレバ貸借ヨリ生ズル債權債務ガ最も多イカラデアアル、是ハ日本ノミナラズ西洋デモサウデス、即チ貸主ハ債權者デアル借

其ノ輸入地ニ於テ其ノ税金ニ等シキ金額ヲ預ケ入ルルカ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スベシ、（註）「債權」ハ「債務」ノ相反ナルモノナリ、又見本帖見本ノ一部及見本ニシテ唯タ見本用ニ適スルニ過キサルモノハ前

項ニ掲載セシヨリ以外ノ方法ニ依リ輸入セラルトキト雖モ其ノ輸入税ヲ免除スベシ、（註）「債權」ハ「債務」ノ相反ナルモノナリ、又見本帖見本ノ一部及見本ニシテ唯タ見本用ニ適スルニ過キサルモノハ前

第四 郵便電信ニ關スル行政權

郵便ニ關スル行政上ノ主權ハ各國皆絕對ニ之ヲ有スルモノナレトモ條約ニ由リテ此權利ノ制限ヲ受クルモノ頗ル多シ、千八百七十八年巴里ニ於テ萬國郵便同盟ナルモノ成立セリ、此同盟ノ結果トシテ各國皆郵便主權ノ制限ヲ受ク郵便同盟ノ與フル便益ハ書狀、端書ノミナラス種種ノ印刷物商品ノ見本、小包郵便代金引換、小包郵便ノ發送ノ認ラレタルコト、同盟國間ニ發送スル郵便物ハ郵税ヲ同一ニスルコト、通過手数料ヲ課セサルコト、郵便同盟ノ中央事務所ヲ設ケテ瑞西ノ監督ノ下ニ置キ郵便同盟ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱ハシメ郵便同盟ヲ稱スル月報ヲ發行シ同盟國間ニ爭ヲ生シタルトキハ仲裁裁判ヲ爲スコト等は

ナリ同盟ノ會議ハ大抵七年ニ一回ツツ開カルルモノナリ該會議ノ開カルル毎
ニ次第二郵便事務ニ便宜ト進歩トヲ與ヘタリ例ヘハ千八百九十七年ノ華盛頓
ニ於ケル萬國郵便同盟會議ニ於テハ左ノ如キ事ヲモ決議シタリ
一 商品見本ノ最大ノ重量在來二百五十グラムナリシヲ三百五十グラムニ
増加スルコト
二 書留郵便物ノ到達證ハ郵便差出ノ當時ニ於テ受タルコトヲ得ルノミナ
ラス差出後ト雖モ之ヲ請求スルヲ得ルコト
三 郵便物ノ遞送中爆發物燃焼物等ノ危險物ヲ發見シタルトキハ途中ニ於
テ直チニ之ヲ棄却スルヲ得ルコト
四 郵便ノ定稅ヲ表スル郵便切手取扱上ノ便宜ヲ圖ランカ爲メニ萬國ノ間
ニ成ルヘタ一定ノ彩色ヲ用フルコト
五 博物學ノ標本ハ商品見本トシテ低稅ヲ以テ遞送スルコト
六 郵便爲替金額ノ最高限度ヲ一千フランニ増加スルコト
電信ニ關スル事ハ千八百八十五年ノ巴里ニ於テ開カレタル一般電信同盟ニ由

リテ定マレリ此同盟ノ中央事務所ハ郵便同盟ノ中央事務所ト共ニ瑞西ノベル
ンニ在リ

電信ニ關シテ重大ナルハ海底電線ノ事ナリ國際法協會ハ嘗テ千八百七十八年
及ヒ七十九年ニ海底電線ニ關スル決議ヲ爲シタリシカ千八百八十四年ノ海底
電線保護ニ關スル萬國條約及ヒ八十六年並ニ八十七年ニ於ケル追加ニ由リテ
極メテ正確ト爲リタリ此條約ノ結果トシテ海底電線ノ毀害ヲ禁シ若シ之ヲ毀
害シタル者ハ海賊ト同一視スヘキコトヲ定メタリ此條約ハ戰時ニ於テ交戰國
カ海底電線ヲ切斷スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ何等ノ約定ヲモ設ケサリシ
カ學者ノ間ニハ戰時ニ於テモ切斷スヘカラサル場合ニ付テ種種ノ議論アリタ
リ千九百二年國際法協會カブリュクセルニ於テ戰時ニ海底電線ヲ切斷スルヲ得
ルヤ否ヤニ關シ定メタル左ノ議決ハ極メテ重要ナルモノナリ

第一 兩中立國間ノ海底電線ハ侵スヘカラス
第二 交戰國ノ領域内ヲ聯結スル海底電線ハ中立國領海間ヲ通過スル處ヲ
除キ何レノ處ニ於テモ之ヲ切斷スルコトヲ得ヘシ

第三 中立國ト交戦國トノ間ノ海底電線ハ中立國領海内ニ於テ切斷スヘカ
 ラス又有效ナル封港ノ場合ヲ除キ公海ニ於テ之ヲ切斷スヘカラス戰爭終
 リタルトキハ再ヒ其接續ヲ全ウスヘキ義務アリト雖モ交戦國ノ領海内ニ
 於テハ何レノ處ニ於テモ之ヲ切斷スルコトヲ得ヘシ
 第四 中立國ハ交戦國ヲ救援スルノ目的ヲ以テ海底電線ヲ使用スヘカラス
 又使用スルコトヲ許スヘカラス
 第五 此等ノ原則ヲ適用スルニ付テハ海底電線カ政府ノ所有タルト商人ノ
 所有タルト中立國ノ所有タルト交戦國ノ所有タルトニ關シ區別ヲ立ツヘ
 カラス
 電話ニ關シテハ唯或國家ト或國家トノ間ノ條約アルノミニシテ未タ萬國電話
 同盟ナルモノアルコトナシ

第三款 衛生ニ關スル行政權

各國皆健康ニ關スル行政上ノ主權ヲ有スルモノナレトモ劇烈ナル病氣ニ對シ

テハ數國ノ間ニ條約ヲ締結シテ其蔓延ヲ防ケリ加之隣國トノ間ニハ醫師ヲ共
 通ニスルコト產婆ヲ共通ニスルコト等ニ關シ特別條約ヲ結フモノアリ又國法
 ヲ以テ自ラ制限スルモノモアリ今日ノ實際ニ於テ衛生ニ關スル國際條規ノ最
 モ發達シタルモノハ檢疫ニ關スル事ナリ船舶又ハ嫌疑船ニ對シテ一定ノ時日
 ノ間隔離ヲ命スルコトハ各國ノ悉ク認ムル所ナリ此制度ハ第十四世紀ノ中頃
 ニ「ベスト」ノ流行シタルトキ伊太利ノ「ヴェニス」共和國カ土耳其ヨリ入港シタル船
 舶ニ對シ二週間ノ隔離ヲ命シタルニ始マレリ

或流行病ニ關シ特別ニ數國ノ間ニ條約ヲ以テ約定シタルモノハ千八百九十二
 年ノ「ヴェニス」ニ於ケル會議千八百九十三年ノ「ドレスデン」ニ於ケル會議千八百九
 十七年ノ「ヴェニス」ニ於ケル會議ノ如シ以上第一及ヒ第二ノモノハ虎列刺病ニ關
 シ第三ノモノハ「ベスト」ニ關スル第一ノモノハ埃及及ヒスエズ運河ニ於テ虎列刺
 病ニ付キ十分ノ取締ヲ爲スコトヲ定メタルモノナリ第二ノモノハ主トシテ「ダ
 ニューブ」河ノ衛生ニ關スルコトヲ定メタルモノナリ此條約締結國ハ佛蘭西獨逸
 奧太利匈牙利露西亞伊太利瑞西和蘭白耳義「ルクセンブルグ」セルビヤ「モンテネ

グロリーヒタンスタイン」ニシテ旅行者ノ交通及ヒ貨物ノ交通ニ關シ十分ノ取締ヲ爲スヘキコトヲ定メ締結國ハ自國ニ疾病者ヲ生シタルトキハ直チニ之ヲ他締結國ニ通告スヘキコトヲ定メ船舶ハ病船嫌疑船無病船ノ三者ニ區別シ各其待遇ヲ異ニスヘキコトヲ定メタリ「ベスト」ノ撲滅ニ關シテハ第三ニ述ヘタルカ如ク千八百九十七年ノ「ヴェニス」條約ヲ以テ之ヲ定メ其内容ハ「ドレスデン」會議ノ虎列刺病ニ關スルモノト大同小異ナリ(明治三十二年法律第十九號海港檢疫法參照)

第四款 財産ニ關スル國際的保護

獸類ノ傳染病ニ關スル國際的保護ノ事ハ箇箇ノ國家ノ間ニ條約ヲ以テ締結セラレタルモノアレトモ萬國條約ト爲ルコトナクシテ止ミタリ葡萄牙ノ害虫ニ關スル歐羅巴諸國間ノ條約ハ千八百七十八年六月十七日ニ締結セラレタリ其加盟國ハ佛蘭西獨逸伊太利奧太利匈牙利西班牙葡萄牙白耳義和蘭瑞典「ルクセンブルヒ」「ルーマニア」「セルビヤ」是ナリ此條約ノ大要ハ切取リタル葡萄牙ノ木ヲ外國

ニ運フヘカラサルコト各國カ葡萄牙害虫ノ驅除ニ關スル規則ヲ制定シテ之ヲ締盟國ニ通知スルコト等ナリ

數國ノ土地ヲ貫流スル河ノ漁業ノ保護ニ關スルモノハ「ライン」河ニ付テノ數國間ノ條約ノ如シ北海ノ漁業ニ關スル事ハ千八百八十二年和蘭ノ海牙ニ於テ英佛獨白葡丁六箇國ノ間ニ締結セラレタリ「ペーリシ」ク海ノ熊虎獵ニ關シテハ從來種種ノ條約アリタレトモ明治三十年日本露西亞北亞米利加ノ三箇國カ結ヒタル條約ヲ最近ノモノト爲ス此他萬國鳥類保護條約ヲ結ハンカ爲メニ各國ノ代表者カ會議シタルコトアレトモ條約ト爲ルコトナクシテ終レリ

第五款 精神的利益ノ保護ニ關スル行政權

第一 宗教ニ關スル行政權 宗教及ヒ寺院ノ事ニ關シテハ各國何レモ行政權ヲ有スルモノナレトモ各國カ信教ノ自由ヲ與フルコトハ國際交通ノ上ニ極メテ便利ナルカ故ニ各國ハ事實

上皆信教、禮拜ヲ制限スルコトヲ爲ササルコトト爲レリ是レ各國ノ憲法カ信教ノ自由ヲ認ムルニ徴シテ知ルヘシ唯リ各國ノ國法カ信教ノ自由ノ認ムルノミナラス國家ト國家トノ條約ニ於テモ萬國條約ニ於テモ信教ノ自由ヲ認メタルモノ極メテ多シ舊時ノモノトシテハ千六百四十八年ノウニエストフハリヤ條約其最モ重ナルモノナリ近年ノモノトシテハ千八百七十八年ノ伯林條約ノ如ク千八百八十五年ノ「コンゴ」條約ノ如シ

第二 道德ニ關スル行政權

道德ニ關スル行政權中最モ重ナルモノハ奴隸買賣禁止ニ關スル事ナリ奴隸買賣禁止ノ事ヲ始メテ約定シタルモノハ千八百十五年二月八日ノ維納會議ノ宣言ナリ此宣言ハ英米兩國ノ發議ニ由リテ生シタルモノナリ此宣言ノ内容ハ左ノ如シ

- (甲) 此條約加盟國ハ自國國民ニシテ奴隸買賣ヲ營ム者ヲ國法ニ依リテ處罰スヘシ
- (乙) 軍艦ハ奴隸買賣船ニ對シ臨檢搜查ヲ捕ノ權利ヲ有ス

ルニ當リ政府ハ同一ノ價格ヲ以テ新舊貨幣ヲ受領スルコトト爲セリ是ヲ以テ新貨幣ハ發行セラルルヤ否ヲ忽チ其跡ヲ收メテ行ク所ヲ知ラス新貨幣ヲ剽竊スル者ハ死刑ヲ以テ之ヲ罰セリト雖モ之ヲ制止スルコト能ハス遂ニ磨損セル舊貨幣ハ實際ノ量目ニ據リテ其價格ヲ定ムルニ至リ始メテ此弊風ヲ杜絶スルコトヲ得タリト云フ又我明治政府ハ開港場ニ洋銀ノ流通スルヲ見テ之ヲ驅逐セシト欲シ明治八年洋銀ニ比シテ量目ノ少シク大ナル貿易銀ヲ製造シテ之ヲ發行セリ然ルニ此貿易銀ハ忽チ支那兩替商ノ爲メニ鎔解セラレ政府ハ遂ニ其目的ヲ達スルコトヲ得サリシナリ

同時ニ異種ノ貨幣流通スル場合ニモ亦「グレシヤム」ヲ法則ノ行ハルルヲ見ルナリ例ヘハ金銀兩本位制ノ國ニ於テ金銀ノ法定比價ハ金一銀十五ナルニ市場比價ハ金一銀十六ト爲ランカ銀塊ヲ有スル者ハ之ヲ造幣局ニ輸納シテ銀貨ト爲シ此銀貨ヲ以テ金貨ニ交換スヘシ何トナレハ市場ニ於テ地金トシテ賣拂フトキハ銀十六匁ヲ以テ金一匁ヲ得ル割合ナレハ市場ニ於テ地金トシテ賣拂フトキスルトキハ銀十五匁ヲ以テ金一匁ヲ得ル割合ナレハナリ右ノ如ク金價上騰セ

ル場合ニ金貨ノ所有者ハ法定ノ比價ヲ以テ之ヲ銀貨ニ交換スルモノナキ理ナ
ルモ實際金銀比價ノ變動ヲ常ニ注意觀察スル者ハ兩替商、地金商、銀行業者等ニ
過キス世人ハ差別ナク金銀貨ヲ授受スル者多キカ故ニ市場ノ比價少シク變動
スルモ金銀貨幣ノ交換ハ法定比價ヲ以テ行ハルナリ故ニ此機會ニ乘シ比價
ノ變動ヲ知ル者ハ銀塊ヲ銀貨ニ製造シ面シテ金銀ハ或ハ溶解セラレ或ハ輸出
セララルナリ最モ明白ニ此事實ノ示スモノハ佛國ノ貨幣史ナリトス即チ千八
百三年以來佛國ニ於ケル金銀ノ法定比價ハ金一、銀十五半ナリシニ千八百二十
年ヨリ千八百五十年ニ至ルノ間市場ノ比價ハ金一、銀十六ニ近カリシヲ以テ金
貨ハ其跡ヲ藏メテ流通セス千八百五十年頃ニ於テハ流通貨幣ハ主トシテ銀貨
ナリシト云フ然ルニ千八百五十年以後金價下落セルヲ以テ金ク反對ノ現象ヲ
生シ銀貨ハ外國ニ去リテ金塊繼續輸入セラレ金貨大ニ流通スルニ至レリ左ノ
統計表ハ以テ當時ノ狀況ヲ示スニ足ルナリ

千八百二十五年ヨリ	金貨製造額	二億六千八百萬法
千八百四十八年ニ至ル	銀貨製造額	二十三億八千法

千八百五十二年ヨリ	金貨製造額	五十八億七百萬法
千八百六十七年ニ至ル	銀貨製造額	三億八千三百萬法

我國カ安政六年歐米諸國ト通商貿易ヲ開キタルニ當リ巨額ノ金貨カ海外ニ流
出セルモ亦「グレンシャム」ノ法則ノ行ハレタルニ外ナラス抑モ德川政府ハ屢貨幣ノ
改鑄ヲ行ヒ之ヲ行フ毎ニ多クハ金銀ノ法定比價ヲ變シ天保年度以後ニ於テハ
金銀ノ比價ハ大凡金一、銀五ノ割合ト爲レリ然ルニ當時倫敦ニ於ケル金銀ノ比
價ハ金一、銀十五半ナリシヲ以テ懸隔ノ大ナルヤ知ルヘキナリ而シテ諸國トノ
條約ニ依リ開港後一年間ハ外國人ノ請求ニ應シ外國ノ金銀貨幣ニ對シ同量ナ
ル我金銀貨幣ヲ引換フルノ義務ヲ負ヘルヲ以テ外國人ハ續續銀貨ヲ輸入シテ
之ヲ一分銀ニ引換ヘ此一分銀ヲ以テ我國ノ金貨即チ小判ヲ買入レ盛ニ之ヲ輸
出シ其額小判一百萬枚餘ニ上レリト云フ而シテ同年十一月ニ至リ貨幣引換ノ
義務廢セラレタルヲ以テ金貨ノ輸出モ停止スルヲ得タリ
又紙幣、貨幣並ヒ行ハルニ當リ紙幣發行額其當ヲ失スルトキハ貨幣ハ流通セ
サルニ至ルモノトス是レ亦「グレンシャム」ノ法則ノ行ハルルカ爲メナリ

以上述フルカ如ク惡貨幣ハ良貨幣ヲ排去スルヲ以テ通則ト爲スト雖モ惡貨ノ流通額ニ制限アルトキハ「グレシム」ノ法則ハ行ハレサルナリ何トナレハ其流通額ノミヲ以テ貨幣ノ需要額ヲ充タスコト能ハサル例ハ補助貨幣ハ本位貨幣ニ對シテ惡貨幣ナリトス然レトモ之カ自由製造ヲ許サスシテ其流通額ニ制限アルヲ以テ本位貨幣ヲ驅逐スルコト能ハサルナリ又現今佛國ニ流通スル五法ノ銀貨ハ其實價法定價格ノ半ニ達セサルモ其流通額増加セザルカ故ニ金貨ヲ排去スルコトナキナリ紙幣ノ場合ニ於テモ亦然リ其發行額宜キヲ得ルトキハ貨幣ト共ニ流通スルモノトス

第六節 單本位制、兩本位制ノ沿革及其得失

現今歐米ノ諸國ハ實際金本位制ヲ採ルモノ多シト雖モ是レ實ニ三十年來ノ事ニ屬シ唯リ他國ニ先シテ早ク金單本位制ヲ用ヒタルハ英國ナリトス即チ英國ハ千八百十六年ヲ以テ純然タル金本位制ヲ定メ爾來毫モ變更セルコトナシ今日所謂兩本位制ナルモノヲ第一ニ採用セルハ北米合衆國ニシテ同國カ金一銀

十五ノ法定比價ヲ有スル金銀貨幣ヲ兩ナカラ無制限ノ法貨ト爲シ且其自由製造ヲ許セルハ實ニ千七百九十二年ナリトス後千八百七十三年本位銀貨ノ製造ヲ停止シ兩本位制ヲ廢シタリシカ千八百七十八年以來頻ニ銀貨ヲ製造シテ無制限ノ法貨ト爲セルヲ以テ事實上跛行兩本位タリキ而シテ千九百年ニ至リ金本位制設定ノ法律ヲ公布シタレトモ從來發行ノ銀貨仍ホ流通スルヲ以テ純然タル金單本位制ト稱スルコトヲ得サルナリ

兩本位制採用ノ時期ハ合衆國ノ後ニ在リト雖モ長ク此制度ヲ維持シテ其規定ヲ變更セザリシモノハ佛國ナリトス即チ千八百三年金一銀十五半ノ割合ヲ以テ銀貨並ニ金貨ヲ發行シ且之カ自由製造ヲ許セリ而シテ千八百五十年代ニ及ヒ金價下落シ佛國並ニ佛國ノ貨幣制度ヲ模倣セル伊太利、瑞典、白耳義ニ於テ銀貨流出ノ現象ヲ呈セルヲ以テ此四箇國ハ共同ノ必要ヲ感シ千八百六十五年條約ヲ締結シ所謂羅典同盟ナルモノヲ組織セリ然ルニ千八百七十年代ニ至リ銀價下落ノ傾向現ルルト共ニ此同盟諸國ニ於ケル銀貨ノ製造額ハ俄ニ増加シ以テ金貨ノ流出ヲ來セルヲ以テ千八百七十四年各同盟國ニ於ケル本位銀貨ノ製

造額ヲ制限シ千八百七十八年ニ至リ全ク之ヲ製造ヲ廢止セリ爾後同盟國間ニ多少ノ紛議ヲ生シタルコトアリシト雖モ此同盟ハ尙ホ今日モ存在スルモノトス

獨逸ハ千八百七十三年ヲ以テ金本位制ヲ採用シ從來發行セルターレル銀貨ノ無制限通用ヲ許セシモ近年其額著シク減少セリ奧太利、匈牙利ハ千八百九十二年金本位ノ貨幣法ヲ公布シテ金貨ノ製造發行ニ著手シ其事業ノ完結將ニ近キニ在ラントス露西亞ハ千八百八十五年以來法律上兩本位制ナリシカ漸次金本位ニ移ルノ準備ヲ爲シ遂ニ千八百九十九年ニ至リ金本位ノ貨幣法ヲ施行セリ其他歐洲ノ重要ナル諸國ハ實際金本位制ヲ採ルモノトス

蘇ヲ維新以後ニ於ケル我國貨幣制度ノ沿革ヲ見ルニ明治四年ノ新貨條例ニ於テハ金貨ヲ以テ本位貨幣トシ如何ナル支拂ニモ制限セラルルコトナク銀貨ハ總テ之ヲ補助貨幣トシ一口ノ拂方ハ十圓ヲ以テ制限トシ開港場ニ於ケル海關稅ノ上納及ヒ外國貿易ノ取引ニ供スル爲メニ一圓ノ銀貨ヲ製シタルモ内地ニハ之ヲ流通ヲ許サザリキ然ルニ明治十一年ニ至リ一圓銀貨モ亦内地ニ於ケル

租稅其他公私ノ取引上總テ金額ニ制限ナク之ヲ通用スルモノトセリ是レ即チ銀貨ヲモ本位貨幣ト爲シタルモノニシテ我國ノ貨幣制度ハ是ニ於テ兩本位制ト爲レリ然レトモ兩本位制ハ全ク空稱ニ止マリ金銀貨幣ハ毫モ通用ナク當時專ラ流通セシハ紙幣ナリキ而シテ明治十七年兌換銀行券條例ヲ發布スルヤ銀行券ハ銀貨ヲ以テ引換フルモノトシ次テ政府發行ノ紙幣ハ明治十九年一月ヨリ銀貨ニ引換フルコトト爲シタルカ故ニ我國ノ貨幣制度ハ事實上全ク銀本位制ト爲リ而シテ此制度ハ十餘年間繼續シタリシカ明治三十年十月一日ヨリ金本位ノ貨幣法ヲ實施シ一圓銀貨ノ通用ハ翌明治三十一年三月ニ限り之ヲ禁止セルヲ以テ爾來純然タル金本位制ト爲レリ

以上述フルカ如ク世界ノ重要ナル邦國ハ多クハ金本位制ヲ採リ兩本位制ヲ維持スルモノハ全ク其跡ヲ絶テリ然レトモ是レ兩本位制カ理論上惡制度タルカ故ニ非ス唯「グレシム」ノ法則ニ抵抗シテ能ク此幣制ヲ固守スルコトハ一國ノ爲シ能ハサル所ナレハナリ若シ夫レ世界ノ富強ナル邦國聯合一致シテ此制度ヲ採ルアラハ其實行必スシモ難キニ非ス是レ即チ萬國兩本位制ヲ主張スル學者

論客ノ少カラサル所以ナリ其論點ノ重要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

一 兩本位制ハ貨幣價格ノ變動ヲ少カラシム

二 兩本位制ハ金銀比價ノ變動ヲ抑制シテ金銀貨國間ニ於ケルニ貿易ノ進

行及ヒ資本ノ移動ヲ圓滑容易ナラシム

三 兩本位制ハ貨幣ノ流通額ヲ多カラシム

右ニ列舉セル利益ノ第一及ヒ第二ハ所謂補正作用ニ基因スルモノニシテ此理

論ヲ最モ明白ニ説明セル佛國ノ經濟學者「ウオラスキー」ノ言ニ曰ク「金」「ポンド」カ

銀「ポンド」ニ對スル價格ノ常ニ變動スルノミナラス金ノ「ポンド」ト銀ノ「ポ

ンド」トヲ合セテ他ノ財貨ニ對スル價格モ亦時時變動スルモノナリ抑モ購買力

ノ變動ハ交易ノ性質上避クヘカラサルモノナルヲ以テ絶對的ニ價格ノ一定ヲ

求ムルハ到底吾人ノ能クスル所ニ非サルナリ然レトモ金銀併用シテ貨幣ト爲

ストキハ所謂補正作用ナルモノ自ラ其間ニ生シ之カ爲メニ金銀比價ノ變動ヲ

減スルノミナラス金銀ヲ合シテ其他ノ財貨ニ對スル價格モ亦變動少キニ至ル

ヘシ之ヲ喻フレハ尙ホ膨張力ノ不同ナル二種ノ金屬ヲ以テ作りタル時計ノ振

ル者ハ此「コンフアレアシオ」式ニ從ヒテ結婚セル者ノ子ニ非サレハ之ニ任ス
ルコト能ハサルノ例ナリシカ帝政時ニ於テハ既ニ之ヲ發見スルコト甚タ稀少
ト爲リ「ガイユス」(Gaius)ノ時代ニハ全然跡ヲ斷ツニ至レリ

(二) 「コエムプシオ」(Coemptio) 此方法ハ賣買ノ儀式「マンシパシ」(Mancipatio)ヲ籍リ女ヲ以テ夫ニ賣リタルモノ

ト假想シ夫權ヲ生セシムルモノナリ若シ女ニシテ自權者タルトキハ後見人ノ

許可ヲ要シ他權者ナルトキハ家父ノ許可ヲ經サルヘカラス此賣買式ハ特別ナ

ル語辭アリ婦ハ直チニ夫ノ權下ニ移ルモノトス

此方法ハ當初ハ平民ニ固有ナル方法ニシテ後ニハ廣ク應用セラレ「ガイユス」ノ

時代ニハ上ノ式ニ代リ獨リ存在セルカ如シ

(三) 「ユジュス」(Usus) 此方法ハ使用ノ義ニシテ夫ハ一年ノ時日間女ヲ使用スルニ因テ夫權ヲ得

ルモノナリ然レトモ此「ユジュス」ノ經過中婦ニシテ三夜外宿スルニ因リ得タル

所ノ效力ヲ失ヒ夫權ヲシテ成就スルヲ妨タルモノナリ故ニ此方法ハ一年間占

有ニ因リ所有權ヲ得セシメタル動産ノ時效ヲ適用シタルモノナリ此方法ハ古
二銅版法ニ載スル所ナルモ教科時代ニハ已ニ消失セリ
古昔ニ於テハ結婚ハ常ニ夫權ヲ生スルモノトシシカ羅馬風俗ノ變遷スルニ隨
ヒ此ノ如キ嚴格ナル習慣ハ漸次頽廢ニ歸シ遂ニ夫權ナキ結婚ハ一般ノ方法ト
爲レルカ如シ然レトモ夫權ナキ結婚ハ正當結婚タルヲ妨ケスシテ子ハ父ニ屬
シ其父權ニ從ヘラル結婚ハ夫權ヲ伴フト否トニ從ヒ著大ナル差異アリ夫權ナ
キ契約ニ因リ結婚セル婦ハ其生來ノ家ヲ捨テス又夫ノ家ニ入ルコトナク生家
ノ家父ノ父權又ハ後見人ノ監督下ニ屬シ若シ自權者タルトキハ己ノ財產ヲ保
有シ夫ハ其所有權ヲ得タルノミナラス之ヲ管理スルノ權ヲモ有セタルカリ又
一方ニハ女ハ夫ノ家ニ對シテハ外人タルヲ以テ女子ノ相續分配ヲ受ケス夫家
ノ財產ノ消長ハ更ニ利害ヲ有セタルカ故ニ婦ハ夫家ノ祭祀上及ヒ社會上ノ關
係トハ分立シ夫ノ生活ニ合スルニ己ノ生活ヲ以テスルコトナク往時ノ結婚ノ
趣旨トハ相背馳スルノ狀アルヲ以テ容易ニ夫權ヲ伴フノ式ニ代フルコト能ハ
ク

此ノ如ク夫權ナキノ結婚ニ在リテハ夫婦ハ互ニ獨立シテ夫ハ婦ノ身體及ヒ財
產上更ニ權力ヲ有スルコト能ハス恰モ下等ナル配偶ニ似タルカ古昔ノ風俗ノ
消亡ト共ニ漸ク世上ニ應用セラレ帝政時ノ初ヨリ漸次夫權ノ式ハ排棄セラレ
教科時代ニ至リ夫權ナキノ結婚ノミ存在スルニ至レリ
羅馬法ニ於テハ結婚ヲ證明スルカ爲メニハ一ノ形式ヲ必要トセザリキ唯事實
上ニハ婚姻贈資ニ關シタル契約書ノ在ルアリ然ラサレハ正當結婚ノ際舉行セ
ル習慣ナリシ盛大ノ儀式アリ之ニ列席セシ證人ニ依リ女ハ正當配偶トシテ納
レラレシコトヲ證明シ得ヘシ其他ノ場合ニ於テハ法學者ハ社會上ニ於テ敬重
サレタル地位ヲ有スル男女ノ合同ハ正當結婚ヲ推測セシムヘキコトヲ決セリ
又ジュスチニアン帝ニ至リ男女ノ共住ハ生來ノ自由人ニ在リテハ結婚ヲ推測セ
シムヘキコトヲ決セリ加之同帝ハ元老院議員及ヒ高官ノ身分ヲ有スル者ハ結
婚贈資ニ付キ證書ヲ作成スヘキコトヲ令セシカ其後耶蘇教の結婚新儀ヲ以
テ法律上ノ必要ト爲シタリ
結婚ヲ形成スル爲メニハ當事者雙方即チ夫婦ト爲ルヘキ男女ノ承諾ヲ得ルヲ

必要トスルハ無論ナレトモ又有形的ニ男女ノ合一ヲ要ス之ヲ「デヂュクシオ、イン、ドモーム、マリチ」(Deditio in domum mariti)ト謂フ此第二ノ條件ハ女ヲ導キテ婚姻上ノ住居即チ夫ノ家ニ致シ之ヲ其手下ニ置タヲ謂フ蓋シ夫婦ニシテ現在スルトキハ此「デヂュクシオ」ヲ必要トセスト雖モ若シ夫ニシテ不在ナルトキハ女ヲ以テ其住居ニ致シ夫ノ歸來ヲ待テテ其意ニ屬セシムルカ故ニ「デヂュクシオ」ヲ實行スルヲ得結婚ヲ成立セシムルモノトス若シ之ニ反シ女ノ不在ナルトキハ有形上夫婦共住スヘカラサルカ故ニ「デヂュクシオ」ヲ行フコト能ハス隨テ結婚ヲ爲スコト能ハス

正當結婚ニ夫婦ノ承諾ヲ得ルハ第一ノ條件ナリ故ニ若シ夫婦タル一方ニシテ承諾ヲ與フルコト能ハサルトキハ婚姻ヲ爲スコト能ハス例ヘハ其發狂者タルトキノ如シ而シテ教科時代ニ於テハ此承諾ハ自由ニシテ家父ノ強制ニ因リ迫取セラルルコトナカリキ

其他結婚ニ必要ナル條件ハ(一)成年(Pubertas)(二)家父ノ承諾(三)結婚能力(Connubium)是ナリ

(一)成年 抑モ結婚ノ目的タル異性ノ二人ヲ結合シ同種ノ形體ヲ生産シ人個種族ノ永續ヲ圖ルニ在リ故ニ苟モ結婚セントスルニハ有形的ニ此機能ヲ有セサルヘカラス若シ然ラザランカ結婚ハ成立スルコト能ハサルモノニシテ例ヘハ宦官未成年ノ如キハ夫タリ婦タルノ能力ナキ者ナリ而シテ男女出生後幾何ノ時日ヲ經過セハ此機能ノ發達シ得ルヤ又如何ナル方法ニ依リ之ヲト知センカハ羅馬法ニ於ケル一問題タリキ

女子ニ對シテハ其結婚年齡一定シテ終始變セス之ヲ以テ滿十二歳ト爲シタル之ニ反シテ男子ニ對シテハ時代ニ從ヒテ異ナリタリ古昔ニ於テハ父或ハ後見者ハ子ノ身體ノ發育ニ隨ヒテ其成年ニ達シタルヲ定メタリ而シテ其外見上ノ變化ヲ示サンカ爲メ毎年「パツキウス」(葡萄酒ノ神ノ祭祀ニ於テ子ハ小兒ノ上套ヲ去リ男兒ノ服裝ヲ著ケタリ)是レ維新前我邦ニ於テ衣服ノ肩上ヲ去リ或ハ前髪ヲ剃レルニ類ス其年齡ハ一定セス通常十四歳乃至十七歳ニシテ爾後子ハ壯年者トシテ「センチュリー」會議ニ列スルヲ得タリ「セルウィユス、ヂュリユス」法ニ從ヘハ十七歳ヲ以テ成年ト爲シタルモ家父ハ其隨意ニ之ヲ減スルヲ得タルカ如

シハ一定ノ年齡ヲ取リ男子ノ成年ヲ確定セシト欲スルノ傾向アリ、
其後世人ハ一定ノ年齡ヲ取リ男子ノ成年ヲ確定セシト欲スルノ傾向アリ、
キリアン派ノ學者ハ十四歳ヲ以テ成年年齡トセンコトヲ主張シ之ニ反シザヒ
ニアシ派ノ學者ハ身體ノ検査ニ依リ之ヲ定メシコトヲ主張シ又法學者プリ
ウス(Prius)ハ兩說ヲ取リ兩ツナカラ之ヲ結合シ十四歳ノ年齡ト身體ノ發達ト
ヲ希望セリ然レトモ第一說ハ遂ニ勝リ制シ羅馬法ノ末年ニハ一般世ニ容レラ
レジュスチニア帝亦之ヲ採用シ反論ヲ裁斷セリ
(二) 家父ノ承諾 配偶者ト爲ルヘキ者ニシテ他權者ナルトキハ必ス家父ノ承
諾ヲ必要トス而シテ此承諾ハ或ハ兩親ニ對スル尊敬或ハ客氣ニ任セル少壯者
ノ情念ヲ制遏シ之ヲ保護スルノ旨趣ニ基クニ非スシテ家父ハ己ノ意ニ悖リ必
然ノ相續者ヲ有セシメラルルコトナシト羅馬法ノ原則ヨリ來ルモノナリ若
シ家父ニシテ其父權下ニ屬スル子ノ結婚ニ對シ拒否ノ權ナカリセハ其崇祀ヲ
受ケ其家名ヲ繼ギ又他日其實產ヲ相續スルニ己カ欲セサル結婚ヨリ生スル子
アルヘシ是故ニ上ノ原則ニ依リ家父ハ隨意ニ子ノ結婚ヲ拒否スルヲ得タルモ

「ローギヌスチニス帝ノ世ニ至リ家父カ正當ノ理由ナクシテ承諾ヲ與ヘサルトキ
ハ司法官ハ之ニ干渉シ家父ヲ強制スルコトヲ許セリ

夫ト爲ルヘキ者ニシテ祖父ノ父權下ニ立チ父ハ猶ホ家族中ニ在ルトキハ同時
ニ父ノ承諾ヲ必要トス何トナレハ其父ハ一朝祖父死亡スルトキハ家父ト爲ル
ノ時アルヘク若シ其承諾ヲ必要トセザランカ彼ハ己ノ意ニ反セル相續者ヲ有
スルニ垂ルヘケレハナリ然レトモ女子ニ於テハ家ヲ出ツルヲ以テ此愛ヲ有セ
ス隨テ家父權ヲ有スル祖父ノ承諾ヲ以テ足レリト爲ス
父ノ發狂シタルカ或ハ捕虜ト爲リ或ハ失踪セル場合ニシテ其承諾ヲ望ムヘカ
ラサルトキハ之ヲ如何ニスヘキカ女子ニ在リテハ其生ム所ノ子ハ母系算屬
父權ニ屬セサルヲ以テ之ヲ求ムルノ必要ヲ見スト雖モ男子ニ在リテハ其趣ヲ
異ニスルヲ以テ法學者ハ之ヲ決スルニ躊躇セリマルコ、オーレリウス帝ニ至リ斷
續的發狂者ノ子ニ於テハ皇帝ノ裁決ヲ仰ギ又連續セル發狂者ノ子ハ隨意ニ結
婚スルコトヲ許セリ(ジュスチニア帝ニ至リ父ノ捕虜ト爲リ又ハ失踪セル場合
ニハ事故ヲ生セシ後三年ニシテ子ハ隨意ニ結婚ヲ得ルコトヲ決セリ)

(三) 結婚能力 成年ニ達シタル者ニシテ正當結婚ヲ爲サントスルニ法律上ノ能力ヲ有スルヲ必要トス此能力ヲ稱シテ「ジュス・コン・エト」(Jus connubii)又「パ・ニ・ユ・オム」(Connubium)ト名ク正當結婚能力ノ缺亡スル者ニ絕對的ナルモノト關係的ナルモノトノ二種アリ

(イ) 絕對的無能力 正當結婚ヲ爲スノ能力全然缺絶シ何人タルヲ問ハス之ト共ニ正當結婚ヲ爲スコト能ハサル者之ヲ絕對的ノ無能力ト爲ス而シテ元來羅馬公民ノミ結婚能力ヲ有スルカ故ニ公民タラサル者即チ羅馬人外邦人及ヒ奴隸ハ正當結婚ヲ爲スコト能ハス然レトモ非公民ノ無能力ハ漸次減少シ遂ニ「カラカラ」帝カ羅馬帝國臣民ノ全體ニ公民ノ資格ヲ付與スルニ及ヒ全ク消失セラ

(ロ) 關係的無能力 結婚能力ヲ享有スル者ト雖モ一定シタル人ト共ニ結婚スルコト能ハス此相互間ニ横ハル結婚ノ妨礙ヲ有スル者ヲ關係的無能力者トス此無能力ノ存スル原因ハ或ハ政治的ナルアリ或ハ公ノ秩序ニ在リ或ハ道德ニ在リ

政治的原因ニ在リタルハ十二銅版法ハ貴族平民間ヲ結婚ヲ禁シ其後「カモレニア」

(Cautela)法ハ此禁ヲ解キタルモ生來ノ自由人ト解放奴トノ間ニ於テハ依然繼續セリ「オーギヌスチヌス」帝ノ世ニ至リ此禁モ亦消失セシモ元老院議員及ヒ其子ト解放奴、俳優及ヒ賣淫婦トノ間ニ結婚ヲ禁セリ然レトモ女優ヲ「テオドラ」(Theodora)ヲ妻リタル「ジュヌチニア」ン帝ハ總テ社會上地位ノ差異ヨリ生スル禁止ヲ廢シタル

其他皇帝ノ訓令ハ州郡ノ官吏ハ地方ニ生レ又ハ住居セル女子ト結婚スルヲ許サス以テ官吏ノ中央權ヨリ遠サカリ地方ノ勢力ニ附セシコトヲ防カントセリ

公ノ秩序ヨリ起レル原因トシテハ後見人ト被後見タル女子トノ間、財產管理人ト被管理人タル女子トノ間ニ又姦通男女間、少女及ヒ其誘惑者間ニハ婚姻ヲ許サス又羅馬帝國ノ末年ニ猶太人、耶蘇教人間ニモ之ヲ禁セリ

其他道德的ノ觀念ニ據リ又同時ニ秩序ヲ以テ基礎ト爲シタルハ親族間ニ於ケル結婚ノ制止ナリ而シテ此禁ハ自然ノ親族即チ「コグナチオ」(Cognatio)及ヒ民法上ノ親族「アグナチオ」(Agatio)ヲ分タス等シク存在セリ血族ニ於テハ直系ナル尊卑屬間ニハ無窮ニシテ養親ニ在リテハ其關係ヲ消失スル後ト雖モ婚姻ノ禁ヲ

遺留ス傍系ニ在リテハ兄弟姉妹間、叔父母甥姪間、大叔父母甥姪間ニハ結婚ヲ許サス。『ローヤヌ』(Clandus)帝ハ其姪ナル「アグリッパ」(Agrippa)ヲ娶ラン爲メ元老院ニ於テ殊ニ將來父系ノ叔姪間ノ結婚ハ自由ナルコトヲ決セシメタリ然レトモ他ノ者即チ叔母ト甥及ヒ母系叔父ト姪トノ間ニハ之ヲ禁セリ「コンスタンチヌス」帝ハ此例外ヲ廢シ而モ死刑ヲ以テ其制裁トセリ。其後之ヲ禁シ「ジュスタリアシモ」(Justinianus)帝ニ至リ義兄弟ト義姉妹ノ間ニ之ヲ禁シ「ジュスタニア」帝亦此禁ヲ認メタリ尤モ此妨礙ハ夫婦ノ一方カ死亡シタルトキ又ハ離婚ニ因リ始メテ發現シ來ルモノナリ何トナレハ此禁ハ婚姻ニ因リ始メテ生シ其繼續中ハ重子ヲ配偶ヲ求ムルコトヲ得サレハナリ。

結婚ヨリ生スル結果

結婚ヨリ生スル結果ハ之ヲ兩件ノ點ヨリ觀察セサルハカラス第一ニハ夫婦交互ノ關係、第二ニハ結婚ヨリ生ル兒子ト其父母及ヒ父母ノ親族ニ對スル關係

是ナリ。

(一) 夫婦間交互ノ關係 夫婦交互間ニ於テ結婚ヨリ生スル金錢上ノ關係ハ後章ニ譲リ今茲ニ之ヲ說カス單ニ其一身ニ對スル關係ノミヲ述ヘンニ往古ノ夫權(Mancus)ヲ件ヘル結婚ニ於テハ婦ハ夫又ハ其父ノ權下ニ屬シ他權者ト爲シテ從屬セシカ夫權ナキ婚姻ニ在リテハ婦ハ其夫又ハ夫ノ父ヨリ全ク獨立シ對等ノ狀態ヲ取リ古昔ノ制度ヨリ生セル羈絆ヲ脱シ婦ノ地位ヲ以テ夫ノ地位ニ併立セシメタリ是ヨリシテ結婚ハ兩兩同一ナル權利ヲ有スル二人ノ會員ヨリ成ル一種ノ結社タル觀ヲ呈シ隨テ夫婦兩者間ニ於ケル交互ノ義務ヲ辨解セシムルニ足ル例ヘハ相互ニ貞實ヲ守ルヘキカ如キ若シ之ヲ犯シ姦通ヲ爲ストキハ即チ離婚ノ原因ト爲ル然レトモ婦ノ之ヲ破ルトキハ殊ニ社會一般カ女子ニ對シ命セル道德ヲ傷ケ且他人ノ種子ヲ親族ニ混入スル等其結果ハ男子ノ之ヲ犯セルヨリモ更ニ重大ナルヲ以テ其制裁ハ常ニ男子ヨリモ重ク「コンスタンチヌス」帝ハ姦通ヲ犯セル女子ハ死刑ヲ以テ之ヲ罰スヘキコトヲ命セリ結婚セル夫婦ヨリ生ル所ノ子ヲ以テ正當子(Liberi iusti)ト爲ス其父母トノ關係

ニ於テ子ト母トノ關係ハ分娩ヲ以テ爭フヘカラサル事實トスルモ子ト父トノ關係ニ於テハ結婚中ニ懷胎セル子ハ夫ヲ以テ父ト爲ス(Pater is est quem nuptiae demonstrant)トノ格言ヲ以テ法律上ノ推定ト爲ス此格言ハ婦ノ貞操ヲ守リ夫婦同居シタルヲ謂フモノニシテ懷妊ノ結婚中ニ在ルヲ定ムルニハ妊孕ノ最長期ヲ三百日ト爲シ最短期ヲ百八十日ト爲ス故ニ結婚後百八十日以内ニ生レ又ハ婚姻ノ觀解後三百日以外ニ生レタル子ハ正當婚姻中ニ懷胎サレタルモノト爲スヲ得ス

子ハ生産後父又ハ一家ノ首長タル者ノ父權ニ屬シ他權者タリ然レトモ其出產ニ先テ家父ノ死亡セル場合ニハ自權者トシテ生ルコトアリ子ハ父ノ有セル社會上ノ地位ヲ取リ姓名住所國籍等父ノモノニ從フ

(二) 正當結婚ヨリ生ルル兒子ノ親族關係 此關係ハ之ヲ二種ニ區別ス一ハ子ノ兩親及ヒ兩親ノ親族ニ對スル關係ニハ子ノ父及ヒ父ノ男系親族關係是ナリ此第一種ノ關係ハ之ヲ名ケテ血族(Occasus)ト謂フ是レ同一ナル始祖ヨリ降レル數人間ノ關係ニシテ子ハ父母ノ血族タリ又父母ノ血族ノ血族タリ而シテ此血

族ニ一ハ他ヨリ降ル者アリ之ヲ直系親族ト爲シ又同一ノ始祖ヨリ降レル者アリ之ヲ傍系親族ト謂フ親族遠近ノ度ハ等數ヲ以テ之ヲ區別ス等數ヲ算スルニ直系ニ在リテハ一代ヲ以テ一等トス故ニ父母子ヲ一等トシ祖父父母孫ヲ二等トス傍系ニ在リテハ兩者ノ共同始祖ニ至ル親族等數ヲ算シ之ヲ加ヘ得タル和ヲ以テ算ス例ヘハ兄弟ニ在リテハ共同始祖タル其父ニ至ル等數即チ各一等ヲ加ヘ得ル所ノ和ヲ以テ二等親族トス叔姪ニ在リテハ叔ノ爲メニハ一等親族タル父姪ノ爲メニハ二等親族タル祖父ヲ以テ共同始祖トシ之ヲ加ヘタル三等ヲ以テ其親族ノ等數トス

第二種ノ親族關係ハ之ヲ宗族(Agnatio)トス此親族關係ハ民法上ノ親族ニシテ自然ノ親族(Cognatio)ニ對立スルモノナリ血族ニ在リテハ共同ノ始祖ヨリ降ルモノニシテ始祖及ヒ中間ノ者ノ男女ヲ問ハス又親子關係ノ起源タル配偶ノ如何ナル者タルヲ別タスト雖モ宗族ニ於テハ之ニ異ナリ男系系統ノミヲ意味シ第一ニ男系ヨリ降り共同ノ始祖ヲ有スル卑屬タルコト第二ニ共同始祖ニ達スルマテ中間ノ尊屬アルトキハ必ス男系ナラサルヘカラサルコトノ二要件ヲ具備

シタル親族ヲ謂フ此宗族關係ハ家父及ヒ兒子ノ間兒子相互ノ間ニ存シ又叔姪間ニ存シ決シテ女系ヲ以テ分隔シタル血族ニ存セス故ニ宗族關係ハ或ハ直接間接ニ同一ナル父權ノ下ニ立ツ者ノ間或ハ自權者ニシテ各自分立シテ家族ヲ成ス者ニ於テハ若シ其共同始祖ノ死亡ナカリセハ等シク其權下ニ立ツヘキ者ノ間ニノミ存在スルヲ得ヘシ宗族ト父權トハ相聯繫シテ殆ト分ツヘカラス宗族ハ必ス現在又ハ過去ノ父權ヲ想像セシムルモノタルハ唯リ生來父權ニ屬スル正當兒子ノミナラス養子、認正子及ヒ夫權下ニ屬スル婦等皆宗族トシテ家父ト相連リタルヲ以テ推測スヘシ而シテ親族權殊ニ後見、相続ノ如キ唯リ之ヲ宗族ニノミ歸シ決シテ血族ニ付與セザリシヲ以テ母系ノ親族ハ毫モ財産上ニ關スル權利ヲ有セス夫權ノ廢滅ト其ニ甚シキ不公平ノ結果ヲ生シタルカ邊ニジユスチニアン帝ハ此古來ノ制式ヲ廢シテ天然ノ理ヲ取り獨リ血族ヲ以テ親族關係ヲ定メ爾後子ハ父母ノ親族ニ對シ同一ノ權利アルコトヲ決セリ

以上ニ陳述セル血族及ヒ宗族ノ外ニ一種ノ親族アリ之ヲ宗統(Genealogy)ト呼フ宗統トハ古昔ノ貴族社會ニ行ハレタル親族關係ニシテ同一ナル男系始祖ヨリ

降リタルモノニシテ其ニ同一ノ姓名ヲ有シタル人(Gens)ノ間ニ於ケル關係ナリ此宗統間ニハ固有ノ祭神アリ又固有ノ祭祀アリテ一種ノ集合體ヲ成シ十二銅版法ニ從ヘハ若シ宗族(Gens)ノ存在セザルトキハ宗統ヲ以テ相續權後見權ヲ享受スヘキモノトス此宗統ナルモノハ帝政時ニ至リテハ已ニ消失シ「ガイウス」時代ニハ全ク存在セザリシモノナリ

二 婚姻ノ解消

結婚ハ配偶者ノ一方ノ死亡自由ノ喪失及ヒ離婚ニ因リ消滅ス

(一) 配偶者ノ一方ノ死亡 男子ハ妻ノ死亡後直チニ結婚スルコトヲ得ルモ婦女ハ其喪ニ服スルノ間即チ十箇月後ニ非サレハ再婚スルヲ許サザリシハ若シ其懷妊ノ際ニハ前後兩夫ノ孰レニカ子ノ父タルヲ定ムルコト能ハサルコト即チ血統混交(Turbatio sanguinis)ノ憂アルニ由ル若シ寡婦ニシテ此規則ヲ犯シ結婚スルトキハ自權者ナルカ又ハ他權者ナルカニ從ヒ夫或ハ其家父ハ汚辱者トシテ宣告セラル耶蘇教皇帝ノ代ニ至リ血統混交ノ原因ニ加フルニ風俗上ノ考察ヨリ再ニ婦人ノ再婚禁止時日ヲ十二箇月トセリ

(二) 自由ノ喪失 夫婦ノ一方カ奴隷ト爲リタルトキハ結婚ハ消滅スルモノニシテ公權回復(Possiminitum)後ト雖モ一旦消滅セル婚姻ヲ復活セシムルコト能ハス唯夫妻同時ニ奴隷ニ陥リ又同時ニ逃脱シテ自由ヲ回復シタルトキニ限り公權回復ノ規則ヲ適用セラルジュスチニアン帝ハ舊來ノ法ヲ變シ婚姻ハ捕虜ト爲リタルニ因リ消滅スルコトナキヲ決セリ然レトモ捕虜ト爲リシ者ノ配偶者ハ五年ヲ經過シタル後尙ホ其死生不分明ナルトキ更ニ結婚スルコトヲ許セリ

(三) 離婚 羅馬ニ於テハ離婚ハ常ニ法律ノ認ムル所ナリシモ古昔時代ニ於テハ婚姻ヲ以テ終生繼續スヘキモノト思考シ實際ニ於テハ久シキ間離婚ハ甚タ稀ナリシカ如シ史傳ニ載スル所ニ依レハ第一ノ離婚ハ羅馬創立後五世紀ニシテ「スピリウス・カルウイリウス・リガ」(Spiritus Carvilius Rige)ハ其妻ノ子ナキヨリ「サントー」(Conso)官ノ命ニ依リ之ヲ離別シ世人ノ論議ヲ招キタリト云フ然レトモ五世紀後ニ至リテハ婚姻ニ對スル世人ノ觀念ハ全ク彪變シ來リ朝婚幕別殆ト常態ナク「セチーカ」ノ説ク所ニ依レハ富豪ノ婦人ハ年曆ヲ數フル爲メ夫ノ名ヲ以テ年號ト爲スニ及ヒ又「オーギヌス・チヌス」帝ノ宰相「メセーナス」(Messana)ハ同一ノ婦

○ 債權者ノ效力

雜 報

○ 債權者ノ效力

○ 債權者ノ效力

○ 間接訴權ノ效力 所謂間接訴權民法第四二三條ニ依リ債權者カ第三債務者ニ對シ債務者ノ權利ヲ行使シタル場合ニ於テハ債權者ハ其實行ニ因リ直チニ自己ノ債權ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得ルルカ大審院ハ曰ク「民法第四百二十三條第一項ニ債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得」規定セラレタルモノハ元來我民法ハ債務者ノ財產ハ各債權者ノ共同擔保タル主義ヲ採リタル結果ニ基キタル法規ニシテ債務者カ自ラ其權利ヲ行使スヘキ時期ニ之ヲ行ハス其時期ヲ失スルノ恐アルカ如キ場合ニ在テハ債權者ハ債務者ニ代ハリ間接ニ債務者ノ權利ヲ行使シ以テ債權者ノ債權ヲ保全スルコトヲ得セシムル法意ニ出テタルモノナリ故ニ此場合ニ於テハ債權者ハ間接ニ債務者ニ屬スル訴權ヲモ行フコトヲ得隨テ其訴追シタル結果判決確定ノ後本件ノ如キハ第三債務者ヨリ債務ノ辨濟ヲ受タルノ權即チ取立ヲ爲スノ權アリト雖モ固ヨリ間接訴權ニ過キタレハ自己ノ債權ニ對シ直接ノ辨濟ヲ請

求スヘキモノニ非ス已レノ債權ニ對スル辨濟ハ第三債務者ヨリ取立ヲナシタ
ル後債務者及ヒ各債權者間ノ關係ニヨリ定マルヘキモノナリ要スルニ右規定
ハ債權者カ自己ノ債權ニ充當スル爲メ第三債務者ヨリ直接ノ辨濟ヲ受クヘキ
コトヲ許シタル法意ニ非サルモノト解釋セサルヲ得ス何トナレハ或ル債權者
カ他ノ債權者ニ先チ第三債務者ヨリ直接ニ辨濟ヲ受クヘキ權利ヲ行フコトヲ
得セシムルニ於テハ他ノ各債權者ノ權利ヲ害スルニ至ルヘキ場合アレハナリ
前段ノ共同擔保主義ヲ採リタル本法ニ於テ豈斯ノ如キ法意ヲ認ムルノ理アラ
ンヤ然リ而シテ本件上告人ノ訴旨ハ第一審ニ於ケル提起訴狀ヲ始メ原判決ノ
認メタル事實及ヒ上告論旨各點ニ徹スレハ自己ノ債權ヲ保全スト唱ヘナカラ
直接ニ自己ノ債權ニ當テ第三債務者ヨリ辨濟ヲ受ケントスル請求ナルコト明
カナリ然ラハ則チ此請求ヲ採用シ其判決確定スルトキハ他ノ各債權者ヲ害ス
ルニ至ルコトアルヘキ筋合ナルヲ以テ之ヲ許スコトヲ得サルモノトスト(大審
院明治三十六年(第四百五號)買取物減失二因ニ損害賠償)
○連帶債務者ノ一人ニ對スル債務ノ免除ト保證債務 連帶債務ノ保證人ハ

若シ甲債務者カ無資力ナルトキハ乙債務者ニ於テ履行スヘク乙債務者モ亦無
資力ナルトキハ己レ債務ノ履行ニ任スヘシトノ意思ニテ保證ヲ爲シタルモノ
ト謂フヘク債務者中ノ一人カ履行ヲ爲ササルカ若クハ無資力ナルニ於テハ己
レ直チニ其履行ノ責ニ任スヘシト思惟シタルモノト謂フコトヲ得サルヘシ(民
法第四五二條第四五三條參照)然ラハ債權者カ二人ノ連帶債務者中ノ一
人ニ對シ債務ヲ免除シ他ノ一人カ無資力ナルトキハ其保證人ノ責任如何即チ
此場合ニ於テハ保證人ハ其無資力者タル債務者ノ負擔部分ニ付キ履行ノ責ニ
任スルモノト解スヘキカ將タ債權者カ一人ヲ免除セサリシナラハ債權者ハ其
者ヨリ辨濟ヲ受ケ得ヘカリシナラントノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ヘキカ大審院ハ
判決シテ曰ク(民法第四百四十五條)ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ト無資力トナリタ
ル者ト向外ニ債務ヲ辨濟シテ求償權ヲ有スル者若クハ未タ之ヲ辨濟セサルモ
其資力アル者ト少クトモ三名以上ノ連帶債務者アリシ場合ニ在ラザレハ之ヲ
適用スルコトヲ得ス是連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ得タル場合ニ於テ他
ノ債務者中ニ辨濟ノ實力ナキ者アルトキハ云云トアル其法文ノ解釋上自ラ明

經世文編卷之四

日本經濟

商法研究錄

總則
會社
附屬

●特價金三十五圓(郵費不取)

●東京日日新聞評

政大學館職員ニシテ多年自家研究ノ

10

三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

上海大華銀行商行為

12

●通俗法律新聞評

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

10

廣東省立第一中學

10

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

二月十二日

14

●三六新報

THE

10

法律顧問



100

三

ナリ而シテ本條ノ規定ヲ設ケタル理由ハ同法第四百三十七條ニ依レハ連帶債
務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他
ノ債務者ノ利益ノ爲メニモ其效力ヲ生シ第四百四十四條ニ依レハ連帶債務者
中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者
及他ノ資力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分ニ應ジテ之ヲ分割スヘキモノナル
ヲ以テ連帶債務者中ニ連帶ノ免除ヲ得タル者ト無資力トナリタル者トアルト
キハ他ノ債務者ハ償還者力拒ニ爲シタル連帶ノ免除ノ爲メ其免除ヲ得タル者
カ素ト負擔スヘキ部分ヲ負擔セサルヲ得タル悲境ニ陥ルヲ以テ之ヲ避クル
爲メ債務者ハ免除ヲ得タル者ノ負擔部分ヲ自ら負擔スヘキ旨規定シ以テ連帶
ノ免除ナキ場合ト同一ニ歸着セシメタルニ外ナラス故ニ本件ノ如ク連帶債務
者二名アリテ其中一名ハ連帶ノ免除ヲ得他ノ一名カ無資力トナリタル場合ニ
本件ヲ適用スルコト能ハサルハ勿論ナリ而テ保證人カ主タル債務者ノ無資力
トナリテ債務ヲ辨濟スルコト能ハサル場合ニ其責任スヘキコト亦明ナルヲ
以テ云云ト(大審院明治三十六年(一)第五百八十九號保證債務判決)

法政大學 編輯局員 守谷富之助 著

新案 商法研究錄

編輯 會社 發行所

● 第百六十四頁● 附錄十二頁

● 特價金三十五錢(郵稅不要)

● 郵券代用ハ四錢切手十枚

● 東京日日新聞評

著者ハ法政大學編輯局員ニシテ多年自家研究ノ爲メニ撰萃シ置キタルモノヲ蒐メテ此書ヲ發行シ同學ノ士ニ頒ツ其ノ上卷ハ總則會社商行爲ノ三編ヨリ成リ卷尾ニ附スルニ諸證券面等ヲ以テス商法家ノ一顧スヘキ新刊書ナリ(二月一日)

● 日本新聞評

著者カ新案ナリト云フ如ク考案カ至極實用ニ適シテ居ル從來世ニ行ハレテ居ル圖解講義又ハ條文分析ノ圖解トモ少シ異トナリテ居ル故ニ商法ノ智識ヲ有ツテ此書ヲ讀メハ法理ト條文トノ關係カ一見シテ明瞭デアアル又商法研究ノ初步若シタハ地方ニ在テ

● 萬朝報評

本書ハ自家研究ノ爲メ撰萃シタル諸書ニモニテ開外ニ書入ヲ爲シ置クヤク出來タリ(二月十三日)

● 二六新報評

商法ハ民法ヲ一應心得タルモノニアラスハ學ヲ能ハス今此ノ書ハ新案ニシテ簡便ナルモノナリ(二月十四日)

● 法律新聞評

由來私立法學校出身者ノ著ス所ノ書多クハ射利ノ目的ノ下ニ發行セザ

レタル何等世間ニ價值ナキ不生産の著是ノミ吾人ハ常ニ斯ノ如キ發行セラルルヲ慨セリ本書ハ全ク此ノ的著書ト其ノ撰オ異ナルハ其ノ目的ニ於テモ將タ實質ニ於テモ然リ……(二月二十日)

●經濟新報評 著者ハ法政大學編輯員ニシテ殊ニ商法ニ精通スト稱セラル此書ハ著者カ多年研究シ溫蓄セル各國ノ法理ト我商法トヲ項目のニ區分シ一見直ニ其疑域ヲ解シ得ル便宜ノ一書ニシテ多忙ナル實業家ニアリテハ必ラス座右ノ侶タルヘシ……(二月二十五日)

●明治法學評 本書ハ名ノ如ク商法研究上ノ便益ニ資スルモノニシテ方式ハ從來未ダ見ナル所ニ係リ新案ヲ稱ニ負カス上卷トシテ商法第一編乃至第三編ニ付キ諸種ノ事項ニ付テ意義、性質、效力、制限、手續、其他例ヘハ登記事項、解散事由等ヲ極メテ簡潔ニ摘録シ各々其條項ヲ註記シアリ末ニ附録トシテ必要ノ法令及ヒ預證券、質入證券、貨物引換證、各種保險證券ノ形式ニ關スル實例ヲ附セルハ、好商ノ用意タリ斯法研究者殊ニ應試者ノ便益ヲ爲ス亦鮮小ナラサルヘシ(三月八日)

東京市麴町區麴町二丁目十番地

發行所

晚 馨 書 院

東京市神田區表神保町四番地

發 賣 所

日 本 經 濟 社

● 學 生 募 集 廣 告

規則入用ノ向ハ郵券
二錢封入申込ムヘシ

今般本大學ハ**商工業其他ノ實業**ニ從事セントスル者ノ**實業科**ヲ加ヘ

ノ外實業ノ爲メ須要ナル商業學、商業地理、英語、簿記等ノ諸學科ヲ教授スルコトトシ
來四月ヨリ其授業ヲ開始ス尙ホ法律科ノ學生ニモ實業科ヲ兼修スルノ途ヲ開ケリ

●大學 豫科 山學校卒業生及之ト同資格者ハ無試験ニテ入學ヲ許ス
來四月ヨリ第一期ノ授業ヲ開始ス

●專門部法律科 正科生及別科生共臨時入學ヲ許ス
●專門部實業科 授業ハ毎日午後五時半ヨリ開始ス

●三十七校外生 何時ニテモ入學ヲ許ス尙ホ別ニ特別法ノ講義録ヲ發行シニ
年一度校外生 第十二號ヲ刊行セリ

三 月 司法部指定 立私 法 政 大 學

規則入用ノ向ハ郵券
二錢封入申込ムヘシ

今般本大學ハ**商工業其他ノ實業**ニ從事セントスル者ノ**實業科**ヲ加ヘ
 爲メニ専門部ニ新タニ**實業科**法律學

ノ外實業ノ爲メ須要ナル商業學、商業地理、英語、簿記等ノ諸學科ヲ教授スルコトトシ
來四月ヨリ其授業ヲ開始ス尙ホ法律科ノ學生ニモ實業科ノ兼修スルノ途ヲ開ケリ

中學校卒業生及之ト同資格者ハ無試験ニテ入學ヲ許ス
來四月ヨリ第一期ノ授業ヲ開始ス

正科生及別科生共臨時入學ヲ許ス
授業ハ毎日午後五時半ヨリ開始ス

三十七年度校外生何時ニテモ入學ヲ許ス尙ホ別ニ特別法ノ講義錄ヲ發行シ已ニ第十二號ヲ刊行セリ

司法省指定
文部省認定

私立
法政大學

發賣所之租賃

日本經濟社

法學志林

一部定價金十二錢
郵費一錢
共一十三錢
十部定價金一百一十二錢
郵費一十二錢
共一百一十四錢
外埠一錢
共一十五錢
郵費一錢
共一十六錢
郵費一錢
共一十七錢
郵費一錢
共一十八錢
郵費一錢
共一十九錢
郵費一錢
共二十錢

第五十四號目次 (三月十五日發行)

志林

○國家ノ觀念ニ關スル學問上ノ抵觸
法學士 岡 實

○先取特權ニ準用スヘキ抵當權ノ規定
法學士 板倉松太郎

○最近判例批評(其十八)
法學博士 梅 謙次郎

○萬國の商法(金)
法學博士 松波仁一

纂論

○露國新刑法(四)
法科大學生 佐竹 三香

解疑

○承繼人ノ意義及債務者ニ對スル保護人ノ地位
法學士 橫田 秀雄

○取締役ノ辭任ト株主總會
法學士 松本 漁治

○賣家ニ父母ナキ十五年未滿ノ養子力繼承ヲ爲
法學士 松本 漁治

○サトンスルトキノ手續
法律學士 堀下重次郎

○手形ノ保護ト連帶
法學博士 富谷航太郎

寄書

○代理關ノ性質ヲ論ス
校 友 增田 晴彦

判例

○大審院新判決例五十二件

其他雜報、記事等

發行所 司法部指定
文部省認定

私法政大學

明治三十七年三月十八日印刷
明治三十七年三月二十一日發行
(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地
萩 原 敬 之

印刷者 東京市牛込區矢來町三番地
小 宮 山 信 好

印刷所 東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
金 子 活 版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所

司法部指定

法政大學

(電話番町百七十四番)

明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可
每月一回 三月五日 八月十一日 十五日 十八日 廿二日 廿五日 廿八日 發行